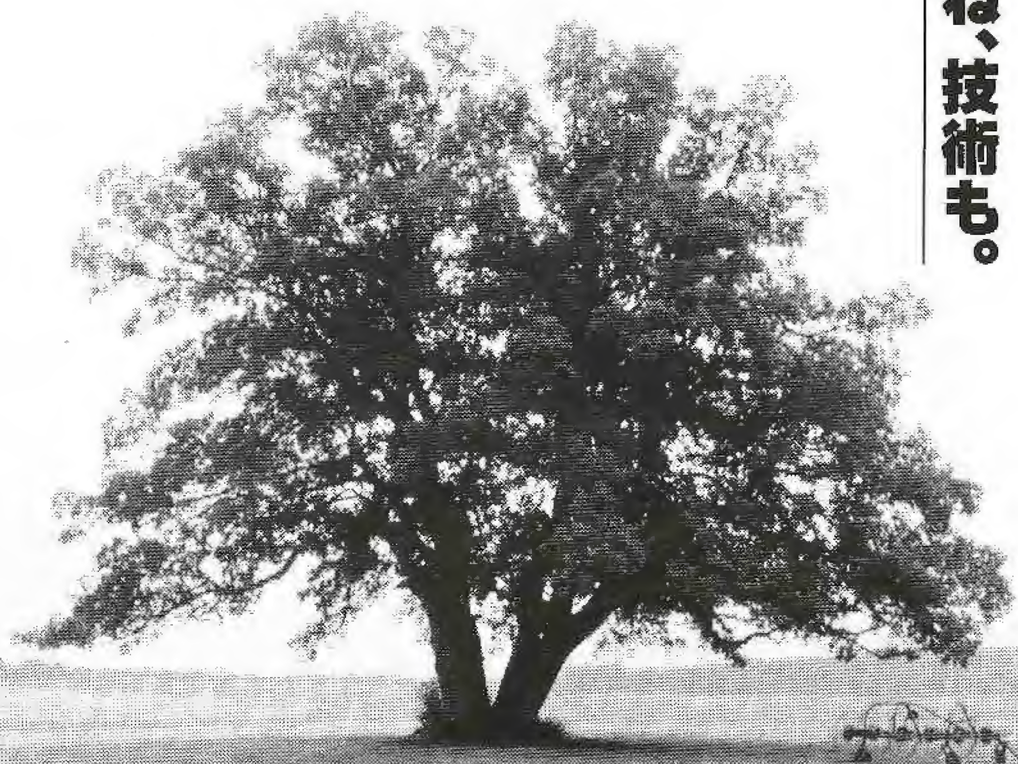

技術にこころをこめて75年


HITACHI

シンプルがいいね、技術も。

近年、〝技術〟はますます高度で複雑になってきました。専門知識を持った人や経験を積んだ人でなくては扱えないような機械もふえています。でも本来機械は、誰もが気軽に使えるものであるべきでしょう。これからの技術には単純明快なわかりやすさが必要なのです。いま日立はインターフェイスという言葉のもとに、人間と技術とのよりよい関係、誰もがかんたんに使いこなせる技術の実現をめざして研究・開発をすすめています。



技術との自由な対話

Interface

株式會社 日立製作所　宣伝部 〒101 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地　TEL東京(03)258-1111(大代)

第37回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

山口に熱く燃える

第37回全日本高等学校ハンドボール選手権大会は、８月１日から７日まで山口県徳山市で、男女各48チームが参加して熱戦をくり広げた。

成績の方は、男子は波乱の連続。春の優勝校・久留米工大附属が準々決勝で敗退、決勝戦は、大分電波（大分）対法政二（神奈川）とどちらが勝っても初優勝という顔合わせとなった。試合展開は、大分電波が後半中ばから一気に抜け出し、粘る法政二を突き放して、初の栄冠を獲得した。

一方女子の方は、春の選抜大会にも優勝、今大会も優勝候補Ｎｏ１の呼び声高かった小松市女（石川）が圧倒的な強さを見せ、決勝戦で名古屋短大附属（愛知）を下して２年連続７回目の優勝を飾った。

〈男子〉 大分電波、初の栄冠に輝く

１回戦

盛岡（岩手）20（11－10、9－9）19 北陸（福井）

○…オープニングゲームとあって緊張気味なのか動きが悪く、敏速でなかったが、徐々にペースをつかみ一進一退の展開となる。後半に入っても両チームともポストプレーを多用、さらにパスミスから得点へと結びつくケースが多かったが、ディフェンスで一歩リードした盛岡一が勝利を得た。（井上）

〔北陸〕	得	
川上	0	GK
川口	0	GK
油田	0	FP
山田	0	FP
宇随	0	FP
石黒	7	FP
高島	3	FP
斉藤洋	1	FP
橋本	0	FP
今本	1	FP
森国	4	FP
斉藤邦	3	FP
	19	PT (2)

〔盛岡一〕	得	
坂下	0	GK
中居	0	GK
高橋	1	FP
小松	9	FP
尾形	4	FP
古館	0	FP
宇都宮	3	FP
手塚	1	FP
我妻	0	FP
小針	0	FP
海野	0	FP
辺見	2	FP
	20	PT (5)

（審・岡村、赤地）

市川（千葉）17（7－10、10－4）14 新居浜工（愛媛）

○…新居浜工・石川のジャンプシュートで先行し、その後着実に加点する。市川も9分、小池のカットインにより得点、宮川もジャンプシュートを連続して決め追いつこうとするが、新居浜工のディフェンスに攻めあぐみ、前半を10－7で終了。

後半に入り、立ち上がり市川・有坂が決めた後一進一退。15分、新居浜工のパスミスより速攻で同点。スカイプレーで逆転する。

新居浜工は、ペナルティーを2本落としたのが痛かった。（林）

〔新居浜工〕	得	
浅田	0	GK
川村	0	GK
石川	6	FP
崎田	1	FP
河崎	4	FP
石井	0	FP
黒川	0	FP
加地	2	FP
立花	1	FP
日野	0	FP
永井	0	FP
嵐	0	FP
	14	PT (1)

（審・倉本、南波）

〔市川〕	得	
橋本	0	GK
小林	0	GK
小池	3	FP
榎	1	FP
野沢	0	FP
高橋	0	FP
宮川	9	FP
本間	2	FP
横山	0	FP
坂井	0	FP
佐藤	0	FP
有坂	2	FP
	17	PT (0)

学法石川（福島）21（10－6、11－8）14 大島（鹿児島）

○…セットでのオフェンスに攻

〔大島〕	得	
橋口	0	GK
森	0	GK
藤江	1	FP
平田	2	FP
嘉納	1	FP
積	3	FP
名間	5	FP
俵	0	FP
箕輪	0	FP
松田	0	FP
迫地	2	FP
野畑	0	FP
	14	PT (2)

（審・切通、大宮）

〔学法石川〕	得	
先崎	0	GK
安孫子	0	GK
森	4	FP
鈴木太	4	FP
大野	1	FP
水野	2	FP
矢内章	2	FP
渡辺	0	FP
矢内教	0	FP
佐藤	7	FP
久和	1	FP
鈴木紀	0	FP
	21	PT (2)

め手を欠く大島は、相手ミスからの速攻で加点していくが、地力に勝る学法石川が、多くのシュートミスがありながらも勝利をものにした。（岡本）

富　岡（群馬）28〔14―7　14―8〕15 四日市工（三重）

○…両チームとも立ち上がりから足を使った早い動きではあったが、シュートミスが目立ち、あまり得点をあげられない。17分、四日市工・切刀の退場をキッカケに富岡の動きが良くなり、前半14―7で終了。

後半、富岡は早いディフェンスのつめと巧いパスカットから速攻を次々と決め大きくリードした。四日市工も懸命に反撃するが、パスがつながらず、一方富岡は最後まで足が良く動き28―15で快勝した。（倉本）

〔四日市工〕	得		〔富岡〕	得
服部	0	GK	清水	0
大橋	0	GK	園部	0
藤井	3	FP	倉沢	6
小林	1	FP	田村	11
加藤	1	FP	武井	0
切刀	3	FP	安藤	2
伊藤	0	FP	黒沢	1
酒匂	1	FP	井上	1
奥野	6	FP	岡部	2
城田	0	FP	木部	2
多湖	0	FP	篠崎	3
久保田	0	FP	神沢	0
	(2)	PT		(3)
	15			28

（審・後藤　千野）

下関中央工（山口）32〔14―6　18―6〕12 宮崎西（宮崎）

○…立ち上がり、宮崎西の多彩な攻めが目立ち、8分過ぎまで5―2とリード。しかし、11分過ぎ下関中央工は、片山、宇都宮の速攻が次々に決まり、14―6と大きくリードして前半を終了した。

後半も下関の太田、沼のサイドシュート、GKの好守からの速攻がよく決まり着々と得点を重ねた。

宮崎西はシュートミスが目立ち、単調な攻めに終わった。（切通）

〔宮崎西〕	得		〔下関〕	得
黒木	0	GK	春国	0
佐々木	0	GK	岩本	0
百田	3	FP	片岡	0
三ヶ尻	2	FP	西木戸	5
太田	5	FP	片山	9
日高健一	1	FP	宇都宮	7
上塚	0	FP	大田	5
高村	1	FP	沼	3
寺田	0	FP	田中	0
前田	0	FP	竹村	1
中武	0	FP	植畑	2
日高健二	0	FP	寺内	0
	(2)	PT		(2)
	12			32

（審・井上　島崎）

三　島（大阪）26〔13―6　13―5〕11 境（鳥取）

○…立ち上がり、三島は相手ディフェンスの反則からのペナルティスロー、速攻、ロングシュートと3連続得点を決め、守っても高いディフェンスで境のパッシブプレー、チャージングを誘い、試合の主導権を握った。小兵揃いの境は、時おりカットプレーからの速攻やポストプレーで反撃したが、ロングシュートを打てないためセットプレーをなかなか得点に結びつけられず1回戦をものにできなかった。（後藤）

〔境〕	得		〔三島〕	得
菅沢	0	GK	福島	0
世山	0	GK		
角	2	FP	古川	5
門永	1	FP	有田	0
由永	2	FP	伊勢坊	1
曽田	2	FP	小坂	2
高橋	3	FP	鳥平	8
小林	1	FP	白井	2
花井	0	FP	山田	6
坂倉	0	FP	戎脇	0
高野	0	FP	山本	0
椏野	0	FP	井上	2
	(1)	PT		(2)
	11			26

（審・小越　林）

愛　知（愛知）24〔7―8　17―6〕14 浦和学院（埼玉）

○…前半、両チームともにカットプレーなど互角の試合展開であった。後半、愛知は埼玉のミスなどを得点へ導き、じりじりとリードしていった。また、愛知のGKは良くとり、ゲームを盛り上げた。（萬場）

〔浦和〕	得		〔愛知〕	得
糸井	0	GK	沖野	0
佐藤	0	GK	国光	0
石井	6	FP	山田浩	1
鈴木	2	FP	山田恵	3
清田	1	FP	山下	7
宮原	2	FP	加藤正	6
小島	0	FP	加藤誠	4
菅野	0	FP	山村	1
小野	2	FP	大蔵	2
八木	0	FP	黒宮	0
久保	1	FP	前田	0
中込	0	FP	柳沢	0
	(1)	PT		(6)
	14			24

（審・石川　船越）

大分電波（大分）23〔11―8　12―5〕13 野辺地（青森）

○…両チームともディフェンス面で固さが見られ、お互いにミスを突く形で大分・源内、野辺地・横浜の両エースが得点。後半に入り、速攻のつなぎに余裕が見られ始めた大分電波が着々と得点を重ねた。野辺地の後半の単調な攻めが惜しまれる。（長井）

〔野辺地〕	得		〔電波〕	得
横浜与	0	GK	糸永	0
沼端	0	GK	篠田	0
荒谷	0	FP	工藤	2
江刺家	2	FP	湯浅	3
横浜良	5	FP	伊南	0
柏崎	3	FP	石本	4
吹越	2	FP	大野	0
岡田	1	FP	園田	2
戸館	0	FP	高松	2
坪	0	FP	源内	10
原子	0	FP	藤田	0
本間	0	FP	宿利	0
	(2)	PT		(4)
	13			23

（審・稲越　石川）

明　石　北（兵庫）15〔9―7　6―7〕14 日　川（山梨）

○…立ち上がりは両チームとも固さが見られ、ミスが目立った。10分過ぎから足もよく動き始め、僅かに余裕の感じられる明石北がリードして前半を終えた。

後半に入っても一進一退の展開となり、辛くも明石北が1点差で逃げ切った。（古冨）

〔日川〕	得		〔明石北〕	得
鶴田	0	GK	高木	0
佐々木	0	GK	磯保	0
大村	3	FP	市川	3
萩原	0	FP	大下	4
佐野	4	FP	大槻	1
田中	0	FP	山下	1
深沢	1	FP	校野	3
丸山	4	FP	坂本	3
勝田	0	FP	野川	0
青柳	2	FP	石井	0
駒田	0	FP	田代	0
河住	0	FP	山本	0
	(1)	PT		(1)
	14			15

（審・松尾　福田）

函館有斗（北海道）21〔8―6　13―7〕13 小　諸（長野）

○…開始より函館有斗は佐久間を中心に連続2点ゲット、小諸も後藤のミドルシュートなどで対抗するも前半8―6で折り返す。後半になっても函館有斗のスピードは衰えず、スピードに足がついていかない小諸は退場者を出し、4名での試合となる間に函館有斗は連続ゲット、21―13で勝利をものにした。（福田）

〔小諸〕	得		〔函館〕	得
小林	0	GK	佐藤	0
尾沼	0	GK	松	0
青木	0	FP	新内	3
池田	0	FP	古川	2
北沢	0	FP	高橋	0
高瀬	3	FP	木村	4
美済津	4	FP	伊藤	0
後藤	4	FP	橋本	1
上村	2	FP	寺嶋	3
東海林	0	FP	岩崎	0
中山	0	FP	水戸部	3
佐藤	0	FP	佐久間	5
	(4)	PT		(4)
	13			21

（審・里　萬場）

那　賀（和歌山）23〔9―8　14―2〕10 新庄工（山形）

○…前半、両チームともにミスの目立つ試合展開で互角の対戦であった。後半、那賀は新庄工のミスを速攻などで得点し、リードの内に終わった。（萬場）

〔新庄工〕	得		〔那賀〕	得
沓沢	0	GK	井上	0
二戸	0	GK	中川	0
阿部	3	FP	倉沢	1
渡辺	3	FP	宮城	10
早坂	3	FP	南之園	2
矢口	0	FP	山本	0
豊岡	0	FP	田中	2
高宮	0	FP	浜野	2
小野	1	FP	中芝	5
伊藤広	0	FP	土井	0
相馬	0	FP	小嶋	1
伊藤浩	0	FP	伊藤	0
	(0)	PT		(1)
	10			23

（審・佐藤　高橋）

天　草（熊本）28〔19―9　9―10〕19 高松商（香川）

○…前半15分まで8―8で一進一退のゲームであったが、天草は高松商・稲澤にマンツーマンについたのをきっかけによく速攻が出だし、7連続得点をあげ、前半を19―9で折り返す。

後半に入っても、速攻、ポストと天草の得点は続き、走力とパスワークのある天草の一方的ゲーム

であった。（森山）

得	〔天草〕		〔高松商〕	得
0	吉川	GK	植田	0
0	松崎	GK	大橋	0
3	鎌田照	FP	宮武	0
1	浦崎	FP	造田	5
0	鎌田弘	FP	稲澤	9
3	山下三	FP	中村	3
0	高波	FP	松本	1
3	山下和	FP	高尾	0
4	鎌田雅	（審・村上	北川	1
1	山下義	角田）	藤野	0
13	田尻		真部	0
0	山下哲		村尾	0
28	(0)	PT	(1)	19

法政二 31 〔15—5／16—4〕 9 神埼農
（神奈川）（佐賀）

○…実力に勝る法政二は、ボールカット、カットインなど抜け目のない攻撃で得点を重ねた。神埼農は、法政二のディフェンスを突破することができず、十分な態勢でシュートも打つことができなかった。神埼農にとって、実力差はなんともしがたく、なすすべがなかった。（中島）

得	〔法政二〕		〔神埼農〕	得
0	中山	GK	佐藤寛	0
0	松本	GK	金山	0
4	田辺	FP	寺崎	0
5	岸	FP	中山	1
4	加藤	FP	佐藤洋	0
3	野崎	FP	真崎	1
8	鈴木	FP	浅野	0
2	中澤	FP	森	2
3	服部	（審・高橋	下森田	1
1	橋井	野中）	古賀	1
0	後藤		大隈	1
1	佐藤		片江	2
31	(3)	PT	(0)	9

下松工 22 〔15—5／7—8〕 13 添上
（山口）（奈良）

○…声援の多い地元下松工に対し添上は前半見事な試合を展開し、常にリードをしていたが、動きがやや止まったところを点差をつめられる。後半は、下松工がペースをつかみ一気に逆転、点差を開いた。添上もよく動き、最後までよく頑張った。（島田）

得	〔下松工〕		〔添上〕	得
0	飯塚	GK	深瀬	0
0	黒川	GK	金崎	0
4	難波	FP	阪本	5
6	伊藤	FP	葛西	2
8	岸田	FP	神薗	1
1	大間	FP	岩田	4
0	溝渕	FP	山本	1
3	湯浅	FP	鈴木	0
0	湊	（審・森山	後藤	0
0	小林	田原）	東田	0
0	藤井		東	0
0	藤村		奥谷	0
22	(1)	PT	(1)	13

明星 31 〔16—9／15—4〕 13 沼津東
（東京）（静岡）

○…GK（伊藤）の好守で、スピードとパスワークに勝る明星が速攻とセットプレーで一方的に得点を加えた前半であった。

後半は、両チームともにミスが目立ったが、走力と得点力に優れた明星が、一方的にゲームを展開しを。沼津東も酒井の活躍が目立ったが、総合力に勝る明星が楽勝した。（佐藤）

得	〔明星〕		〔沼津東〕	得
0	伊藤	GK	田沢	0
0	山本	GK	土屋	0
1	松本	FP	渡辺	3
8	中里	FP	武井	4
5	川上	FP	鈴木一	0
0	米山	FP	一瀬	1
3	坂庭	FP	酒井	3
9	市田	FP	杉山	1
1	萩原	（審・中島	高橋	1
0	酒井	上野）	野田	0
4	清水		岩崎	0
0	三浦		鈴木啓	0
31	(3)	PT	(1)	13

湯沢 32 〔16—5／16—1〕 6 池田
（秋田）（徳島）

○…前半、立ち上がりから池田のミスが多く、10分で7—0と湯沢の一方的リード。その後攻撃に苦しむ湯沢から、パスカット、シュートカットとほとんど速攻で16—1のワンサイドゲームとなり、前半で勝負を決めた。（大村）

得	〔湯沢〕		〔池田〕	得
0	菅原	GK	宮本	0
0	近	GK	富田	0
15	高山	FP	大塚	2
5	佐々木一	FP	吉本	0
0	佐々木徹	FP	梶田	0
0	佐藤	FP	金文	1
3	長沢	FP	林	0
3	赤平	FP	武田	0
1	井上	（審・田原	高原	0
1	坂本	森山）	国田	0
1	八十田		小林	0
3	高山		藤本	0
32	(0)	PT	(1)	6

2回戦

久工大附 33 〔16—5／17—3〕 8 盛岡一
（福岡）

○…試合開始より総合力に勝る久留米工大附は5分にして4点連続ゲット。盛岡一も懸命に攻撃をするが、久留米の厚いディフェンスにゲットすることができず、前半で17—3とゲームが決まったような大差で前半を折り返す。

後半も久留米のペースは全く変らず、盛岡にマイペースでハンドボールをさせずに32—8の大差で一方的に勝利を得た。（福田）

得	〔久工附〕		〔盛岡一〕	得
0	福山	GK	坂下	0
0	篠崎	GK	中居	0
0	柴田	FP	高橋	2
7	田中	FP	小松	2
3	弥吉	FP	尾形	1
5	中山	FP	古館	2
2	杉元	FP	宇都宮	0
4	久保田	FP	手塚	0
6	川崎	（審・切通	我妻	0
1	近藤	大宮）	小針	0
4	菰原		海見	0
1	高尾		辺見	0
33	(0)	PT	(2)	8

市川 24 〔14—5／10—8〕 13 長浜北
（滋賀）

○…前半8分まで1—1だったが、まずペースをつかんだのは市川で、それを徐々に長浜北が追い上げ、10—8で前半を終了した。

後半に入って、市川は宮川、小池を中心に得点を加え逃げ切った。

長浜北は個人プレーに頼りすぎ、市川を大きく崩すことができなかった。（中島）

得	〔市川〕		〔長浜北〕	得
0	橋本	GK	森	0
0	小林	GK	長谷川	0
5	小池	FP	岡部	7
2	榎	FP	田中	0
3	野沢	FP	荒尾	0
2	高橋	FP	磯島	0
7	宮川	FP	河瀬	0
1	本間	FP	柴田	2
0	横山	（審・古富	宮	2
0	坂井	山根）	中山	0
1	佐藤		岩田	2
3	有坂		北村	0
24	(3)	PT	(0)	13

学法石川 36 〔18—5／18—4〕 9 土佐
（高知）

得	〔学法石川〕		〔土佐〕	得
0	先崎	GK	浜田成	0
0	安孫子	GK		
1	鈴木良	FP	池本篤	0
6	森	FP	長谷川	2
7	鈴木善	FP	池本憲	0
8	大野	FP	千種	2
2	水野	FP	田所	2
6	矢内章	FP	片山	0
2	渡辺	（審・萬場	初田	1
2	矢内教	里）	大原	0
2	佐藤		近藤	1
0	久和		浜田恵	1
36	(2)	PT	(1)	9

○…大型チームの学法石川は、前半から力で押しまくり、土佐を一方的に押し切ったワンサイドゲームであった。学法石川は点差が開いていたが、全力プレーで素晴らしかった。（大宮）

富岡 25（14—8 11—4）12 修道（広島）

○…前半16分までは互角、16分過ぎから修道は富岡のディフェンスを攻めあぐみ、立て続けに速攻され、6点差で前半を終わる。

後半、富岡は修道を15分間無得点に封じ固いディフェンスから速攻し、確実にまとめて勝利をものにする。（山根）

〔修道〕

	選手	得
GK	竹田	0
GK	吉村	0
FP	後藤	1
FP	岡本	3
FP	大畠	0
FP	有政	3
FP	浅海	0
FP	村重	0
FP	竹内	5
FP	浜井	0
FP	吉良	0
FP	桐良	0
PT		(1)
		12

〔富岡〕

	選手	得
GK	清水	0
GK	園部	0
FP	倉沢	1
FP	田村	7
FP	勅使河原	0
FP	安藤	3
FP	黒沢	0
FP	井上	0
FP	岡部	2
FP	木部	9
FP	篠崎	3
FP	神沢	0
PT		(1)
		25

（審・大村　島田）

下関中央工 22（10—8 12—5）13 高岡向陵（富山）

○…下関がポストプレーなどでリードしていたが、高岡もロングなどで次第に得点差を縮め、10—8と下関の2点リードで前半を終了。

後半も互角の出だしであったが、下関がカットプレーなどで次第にリードし、得点差を広げていった。（萬場）

〔高岡〕

	選手	得
GK	布橋	0
GK	松井	0
FP	広瀬	0
FP	杉沢	6
FP	土平	0
FP	大角	3
FP	井戸	0
FP	藤井	1
FP	加治	0
FP	椎山	1
FP	塩井	0
FP	谷田	0
PT		(0)
		13

〔下関〕

	選手	得
GK	春国	0
GK	岩本	0
FP	片岡	0
FP	西木戸	4
FP	片山	6
FP	宇都宮	5
FP	大田	5
FP	沼	2
FP	田中	0
FP	竹村	0
FP	植畑	0
FP	寺内	0
PT		(1)
		22

（審・松尾　福田）

三島 23（10—3 13—4）7 足利工（栃木）

○…前半、お互いセット攻撃の接近戦のためかスローペースでお互い得点が取れないまま5～15分の間にポストプレーを巧くに生かした三島が10—3でリード。後半、速攻とカットインプレーを生かし得点を加え23—7で終わる。（大村）

〔足利工〕

	選手	得
GK	吉田	0
GK	菅井	0
FP	田所	0
FP	田辺	2
FP	細田	2
FP	中村猛	0
FP	中村明	1
FP	保泉	1
FP	大美賀	1
FP	桧野	0
FP	長谷川	0
FP	青山	0
PT		(0)
		7

〔三島〕

	選手	得
GK	福島	0
FP	井上	8
FP	古川	3
FP	有田	0
FP	伊勢坊	3
FP	小坂	0
FP	鳥平	6
FP	白井	0
FP	山田	3
FP	戎脇	0
FP	山本	0
PT		(1)
		23

（審・中島　上野）

小松明峰 14（8—9 6—3）12 愛知（石川）

○…愛知がサイド、ロングで先行し、リードを確実にするかに見えたが、小松明峰のフェイントは相手ディフェンスを乱してからのカットイン、相手のラフプレーを速攻につなぎ、前半20分には同点となった。随所に見せるGKの美技はいやが上にも試合を盛り上げた。

残り3分、愛知は退場者を出し、その間に小松明峰の足による攻めは素晴らしいものがあり、強豪を突き放した。（千野）

〔愛知〕

	選手	得
GK	沖野	0
GK	国光	0
FP	山田浩	1
FP	山田恵	1
FP	山下	4
FP	加藤正	2
FP	加藤誠	4
FP	山村	0
FP	大蔵	0
FP	黒宮	0
FP	前田	0
FP	柳沢	0
PT		(0)
		12

〔明峰〕

	選手	得
GK	河南	0
GK	飯森	0
FP	川潟	1
FP	鮫島	0
FP	村本	0
FP	西東	2
FP	白川	0
FP	宮多	0
FP	二木	0
FP	魚川	0
FP	向井	11
FP	小路	0
PT		
		14

（審・赤地　岡村）

大分電波 27（12—9 15—12）21 北嵯峨（京都）

○…前半、大分はロング、サイド、速攻と多彩な攻めで得点を重ねた。北嵯峨は、10分大分のロングシューター源内をマンツーマンで守る一方、ディフェンスの裏にパスを落とす攻撃で反撃し、12—9で前半を終了。

後半、両チームとも持ち前の攻撃で一進一退の好ゲームとなったが、10分過ぎ北嵯峨に退場者が出た間に大分は確実に得点し、そのリードが最後まで縮まらず、北嵯峨は田中の2回の退場が響いた一戦だった。（倉本）

〔北嵯峨〕

	選手	得
GK	村上	0
GK	今井	0
FP	渡邊	4
FP	松本	3
FP	田中	3
FP	山口	0
FP	井上	0
FP	平野	0
FP	徳平	0
FP	内藤	0
FP	土田	7
FP	政田	4
PT		(2)
		21

〔電波〕

	選手	得
GK	糸永	0
GK	篠田	0
FP	工藤	3
FP	湯浅	2
FP	伊南	0
FP	石本	6
FP	大野	0
FP	園田	4
FP	高松	4
FP	源内	8
FP	藤田	0
FP	緒環	0
PT		(1)
		27

（審・千野　後藤）

長崎日大 26（10—9 16—6）15 明石北（長崎）

○…前半、両チームとも速攻と速いパスワークで一進一退の好ゲームを展開し、10—9と長崎の1点リードで折り返す。

後半に入りシュートミスが目立ち始めた明石北に対し、長崎は林のロング、中野のポストとチャンスを確実に得点に結びつけ、26—15で勝利を握った。（森山）

〔明石北〕

	選手	得
GK	高木	0
GK	磯保	0
FP	市川	6
FP	大下	2
FP	大槻	2
FP	山下	0
FP	校野	1
FP	坂本	4
FP	野川	0
FP	石井	0
FP	田代	0
FP	山本	0
PT		(1)
		15

〔長崎〕

	選手	得
GK	法村	0
GK	増見	0
FP	森賢	1
FP	森勝	3
FP	角	0
FP	中野	6
FP	喜佐田	3
FP	林	7
FP	石本	6
FP	松本	0
FP	濱口	0
FP	井手	0
PT		(3)
		26

（審・島崎　井上）

江津 23（9—7 14—7）14 函館有斗（島根）

○…最初よく似たゲームの運びで、一進一退であったが、江津のサイドからのシュートが決まり出し、2点をリードして前半を終える。後半、函館有斗の動きが悪くなり、佐久間のロングシュートを阻止されたり、パスミスが多く、一方、江津はポストからのシュート及び速攻で加点し勝利を得た。（井上）

〔函館〕

	選手	得
GK	佐藤	0
GK	松	0
FP	新内	3
FP	古川	1
FP	高橋	0
FP	木村	3
FP	伊藤	0
FP	橋本	0
FP	寺嶋	0
FP	水戸部	2
FP	佐久間	5
FP	建部	0
PT		(1)
		14

〔江津〕

	選手	得
GK	林	0
GK	深野	0
FP	安部	6
FP	島田	2
FP	武田	5
FP	青木	5
FP	後藤	1
FP	西川	4
FP	奥井	0
FP	高畑	0
FP	石田	0
FP	森口	0
PT		(3)
		23

（審・石川　船越）

那賀 21（11—8 10—11）19 岩井（茨城）

○…那賀は速攻からの得点、岩井はセットプレーから江原、吉原を中心とする攻めで対等に試合を進めていたが、後半は両チームとも速攻主体の攻めとなり、速攻にやや勝る那賀が勝利をものにした。（石川）

〔岩井〕

	選手	得
GK	岩見	0
GK	中島	0
FP	渡辺	3
FP	鈴木	3
FP	江原	6
FP	高橋	0
FP	高崎	3
FP	片野	1
FP	田中	0
FP	吉原	3
FP	山崎	0
FP	生井	0
PT		(1)
		19

〔那賀〕

	選手	得
GK	井上	0
GK	中川	0
FP	倉沢	3
FP	宮城	6
FP	南之園	3
FP	山本	0
FP	田中	0
FP	浜野	5
FP	中芝	4
FP	土井	0
FP	小嶋	0
FP	伊藤	0
PT		(0)
		21

（審・森山　田原）

天草 21（14—4 7—4）8 市岐阜商（岐阜）

○…小柄ながら天草は、コンビプレー、速攻ともに良く、着実に得点を重ねた。

一方、岐阜商はシュートの確実性にやや欠け、単発シュート、突っ込みすぎなどミスが目立った。（中村）

位置	〔岐阜〕	得	〔天草〕	得
GK	山口清	0	吉川	0
GK	神戸	0	松崎	0
FP	尾崎	1	鎌田照	1
FP	福田	3	浦崎	1
FP	山口佳	1	鎌田弘	1
FP	酒井	2	山下三	4
FP	山北	0	高波	1
FP	川崎	0	山下和	3
FP	平下	0	鎌田雅	5
FP	黒川	1	山下義	0
FP	大沼	0	田尻	5
FP	若山	0	山下哲	0
PT		(0)		(3)
		8		21

（審・佐藤・高橋）

法政二 27〔15―6 12―6〕12 古川工（宮城）

○…前半、法政二は加藤、岸のシュート、そして速攻などで着実にリードを奪い、12―6とダブルスコアとした。後半に入っても法政二の一方的な試合となった。古川工は、法政二のディフェンスを崩すだけの速い攻めができず、法政二の逆速攻を食うなど苦しい戦いであった。（角田）

位置	〔古川工〕	得	〔法政二〕	得
GK	野田	0	中山	0
GK	木村	0	松本	0
FP	藤田	5	田部	7
FP	相沢	1	岸	4
FP	後藤	4	加藤	3
FP	渡辺	2	野崎	2
FP	佐々木幸	0	鈴木	7
FP	佐々木康	0	中沢	2
FP	坂本	0	服部	1
FP	武田	0	橋井	0
FP	澤田	0	後藤	1
FP	石川	0	佐藤	0
PT		(1)		(0)
		12		27

（審・林・小越）

下松工 27〔12―13 15―5〕18 新潟江南

○…1回戦を勝ち抜き、地元の声援を受けて意気上がる下松工とこれが初戦となり固さの見られる新潟江南。速攻のスピードに勝る下松工が、相手のミスをついて前半15―5の大量リードで終了。

後半に入り、ようやくリズムを取り戻した江南が互角の勝負を展開、前半の下松工に合わせた攻撃が惜しまれる。（長井）

位置	〔江南〕	得	〔下松〕	得
GK	瀬野	0	飯塚	0
GK	田中	0	黒川	0
FP	白倉	2	難波	4
FP	関口	7	伊藤	3
FP	佐藤	2	岸田	2
FP	笹谷	3	大間	3
FP	佐久間	0	溝渕	6
FP	清水	0	湯浅	5
FP	森岡	0	湊	0
FP	黒島	3	小林	1
FP	伊藤	0	藤井	3
FP	梶井	0	藤村	0
PT		(1)		(0)
		18		27

（審・高橋・佐藤）

明星 31〔14―12 17―5〕17 玉野光南

○…明星がスピードを生かした攻撃で快勝した。前半から玉野光南の攻撃ミスを着実に加点し、17―5と大差で終わる。後半に入りディフェンスの甘くなった明星に対し、玉野光南も河合のミドルシュートなどで食い下がったが、前半の差が大きく振り切られた。（赤地）

位置	〔玉野〕	得	〔明星〕	得
GK	光井	1	伊藤	0
GK			山本	0
FP	南條	3	松本	3
FP	村上	0	中里	4
FP	道端	1	川上	6
FP	久成	0	米山	0
FP	渡辺	1	坂庭	3
FP	河合	10	布田	12
FP	森本	0	萩原	0
FP	浅野	0	酒井	0
FP	山本	1	清水	3
FP	林	0	三浦	0
PT		(1)		(1)
		17		31

（審・林・小越）

コザ（沖縄）28〔15―10 13―9〕19 湯沢

○…前半開始早々、湯沢は2点を先行するが、ディフェンスの甘さをつかれ、コザに速攻、サイドシュートで逆転を許し、13―9で前半を終える。

後半に入っても、コザは相手シュートミスを速攻に結びつけるなどして着実に加点し、勝利した。（角田）

位置	〔湯沢〕	得	〔コザ〕	得
GK	菅原	0	兼島	0
GK	近	0	牧喜屋	0
FP	高山健	7	照屋	0
FP	佐々木一	1	伊沢	6
FP	佐々木徹	1	金城	3
FP	佐藤	4	桑江	0
FP	長沢	2	渡久地	5
FP	赤平	2	安里	2
FP	井上	1	稲福	6
FP	坂本	1	神里	5
FP	八十田	0	西平	0
FP	高山康	0	仲地	1
PT		(2)		(0)
		19		28

（審・中村・長井）

3回戦

久工大附 24〔14―6 10―6〕12 市川

○…開始2分、久留米・弥吉のポストシュートで先制。市川は5分過ぎに有坂のロングで追いついたが、久留米はPT、サイドシュート、ステップと多彩な攻撃で追加点をあげ10―6で前半終了。

後半も久留米は川崎、久保田、中山らのポスト、スカイ、速攻と攻撃の手をゆるめず着々加点。一方、市川は大型で固いディフェンスを攻めあぐみ、有坂らのロングで追うのが精一杯だった。（南波）

位置	〔市川〕	得	〔久工付〕	得
GK	橋本	0	福山	0
GK	小林	0	篠崎	0
FP	小池	1	柴田	0
FP	榎	1	田中	1
FP	野沢	1	弥吉	2
FP	高橋	0	中山	4
FP	宮川	4	杉元	0
FP	本間	1	久保田	3
FP	横山	0	川崎	9
FP	坂井	0	近藤	0
FP	佐藤	0	菰原	5
FP	有坂	4	高尾	0
PT		(1)		(3)
		12		24

（審・林・小越）

富岡 23〔10―7 13―9〕16 学法石川

○…試合開始よりお互い点の取り合いで始まったが、13分過ぎ富岡4連続得点で主導権を握る。その後も速攻で加点し、前半4点リードで終了する。

後半に入っても富岡は相手のパスミスを速攻につなげるなどして着実に得点を重ね、嬉しいベスト8入りとなる。富岡GK清水の好守が目立った。また、学法石川も最後まで元気あるプレーを見せ好感が持たれた。（林）

位置	〔学法石川〕	得	〔富岡〕	得
GK	先崎	0	清水	0
GK	安孫子	0	園部	0
FP	森	3	倉沢	3
FP	鈴木善	1	田村	5
FP	大野	5	武井	0
FP	水野	6	安藤	6
FP	矢内	1	井上	0
FP	渡辺	0	岡部	0
FP	佐藤	0	木部	6
FP	久和	0	篠崎	3
FP	岡部	0	神沢	0
FP	鈴木紀	0	勅使河原	0
PT		(1)		(1)
		16		23

（審・大宮・切通）

三島 24〔11―8 13―9〕17 下関中央工

○…立ち上がり三島が3点連取すれば下関も3点を取り返し、以後シーソーゲームとなる。しかし

20分を過ぎ下関がシュートミスを重ねたのに対し、三島は4点を連取、13−9で前半を終了。
後半に入り、下関はリズムがかみ合わずミスを重ねる。一方、三島はよく走り得点を重ね、意外な大差がついた。（古冨）

得	〔三島〕		〔下関〕	得
0	福島	GK	春国	0
6	井上		岩本	0
0	古川	FP	片岡	0
0	有田		西木戸	6
0	伊勢坊	（審・千野 後藤）	片山	4
0	小坂		宇都宮	4
9	鳥平		大田	3
2	白井		沼	0
7	山田		田中	0
0	戎脇		竹村	0
0	山本		植田	0
			寺内	0
24	(1)	PT	(1)	17

大分電波 22（11−11、11−6）17 小松明峰

○…7−1となった時は大分電波の一方的な試合と思われたが、小松明峰は粘り強い攻撃で前半を同点で折り返した。後半も大分電波は源内を中心に得点を重ねるが小松明峰は総合力で対抗し、なかなか差を広げさせなかった。しかし、決め手を欠く小松明峰が少差で涙を飲んだ。（不明）

得	〔電波〕		〔明峰〕	得
0	糸永	GK	河南	0
0	篠田		飯森	0
2	工藤	FP	川潟	3
6	湯浅		鮫島	2
0	伊南	（審・山根 古富）	村本	0
0	石本		西東	3
0	大野		白川	3
2	園田		宮多	0
2	高松		二木	0
10	源内		魚川	0
0	藤田		向井	6
0	宿利		小路	0
22	(2)	PT	(2)	17

長崎日大 26（15−3、11−5）8 江津

○…長崎日大のロングシュートとポストプレーで着々とポイントを加え、速攻で点を引き離す展開。一方、江津は長崎日大のパスコース、走るコースをつぶす積極的ディフェンスに苦しみ、ポイントをあげることができず、前半で勝負があった。（大村）

得	〔長崎〕		〔江津〕	得
0	法村	GK	林	0
0	増見		深野	0
1	森賢	FP	安部	0
5	森勝		島田	2
0	角	（審・野中 高橋）	武田	0
3	中野		青木	4
4	喜佐田		後藤	0
4	林		西川	2
7	石本		奥井	0
0	松本		高原	0
1	濱口		石田	0
1	稲佐		森口	0
26	(0)	PT	(2)	8

天草 29（12−5、17−8）13 那賀

○…小兵同士の対戦は、速攻とカットインのスピードにやや勝る天草のリードで前半終了。後半に入っても那賀のディフェンスは天草を押さえきれず、残り10分から反撃を開始したが万事休す。（長井）

得	〔天草〕		〔那賀〕	得
0	吉川	GK	井上	0
0	松崎		中川	0
4	鎌田照	FP	倉沢	3
0	浦崎		宮城	4
0	鎌田弘	（審・船越 石川）	南之園	2
2	山下三		山本	0
0	高波		田中	1
10	山下和		浜野	1
10	鎌田雅		安田	1
0	山下義		中芝	1
3	田尻		土井	0
0	山下哲		小嶋	0
29	(0)	PT	(1)	13

法政二 21（9−7、12−6）13 下松工

○…両チームともスピードある攻撃を最初から展開しゲームを進めたが、サイドシュートに勝る法政二が2点リードで後半に入ったが、5分過ぎからの10分間、下松工のコンビネーションのミスをうまく利用した法政二は速攻、ミドルシュートなどで一気に下松工を16−9と突き放した。下松工も懸命にミドルシュート、サイドシュートをするが、ディフェンスの腕、GKの好守にゲットすることができず、最後は21−13で法政二が勝利をものにした。（福田）

得	〔法政二〕		〔下松工〕	得
0	中山	GK	飯塚	0
0	松本		黒川	0
3	田部	FP	難波	5
3	岸		伊藤	1
2	加藤	（審・森山 田原）	岸田	2
4	野崎		大間	1
7	鈴木		溝渕	4
0	中沢		湯浅	0
2	服部		湊	0
0	橋井		小林	0
0	後藤		藤井	0
0	佐藤		大木	0
21	(1)	PT	(2)	3

明星 24（11−6、13−9）15 コザ

○…明星のスローオフで試合開始、18秒、そして4分と明星・中里が連続ゲット。一方コザは、堅さが目立ちミスが多い。しかし、コザも6分から渡久地が2点連取同点に。10分過ぎから明星が速攻で着々と加点、コザはミスが目立ち、11−6と明星が前半をリード。
後半も明星の好守が勝り、得点差も縮まらず結局24−15で明星の勝利。（高橋）

得	〔明星〕		〔コザ〕	得
0	伊藤	GK	兼島	0
0	山本		我喜屋	0
1	松本	FP	照屋	0
5	中里		伊沢	4
5	川上	（審・赤地 岡村）	金城	1
0	米山		桑江	0
1	坂庭		渡久地	2
9	布田		安里	1
0	萩原		稲福	3
0	酒井		神里	3
3	清水		西平	0
0	三浦		仲地	0
24	(2)	PT	(2)	15

準々決勝

富岡 21（12−8、9−12）20 久工大附

○…富岡のスピードある攻撃が久留米の技を封じた感じで、久留米は歯車がかみ合わず、前半4点をリードされた。後半、久留米は富岡・安藤をマンツーマンで守る一方、富岡2度の退場の間後半15分には同点に追いつき、接戦に持ち込んだが、富岡は退場者の出た5人攻撃ながら19分30秒、サイドシュートを決め逃げ切った。（中村）



選抜優勝校の久留米工大附は、準々決勝で富岡の前に敗れ去った

得	〔久工付〕		〔富岡〕	得
0	福山	GK	清水	0
0	篠崎		園部	0
0	柴田	FP	倉沢	1
2	田中		田村	4
2	弥吉	（審・島崎 井上）	武井	1
5	中山		安藤	5
0	杉元		黒沢	0
2	久保田		井上	0
3	川崎		岡部	1
0	近藤		木部	6
6	孤原		篠崎	3
0	高尾		神沢	0
20	(2)	PT	(2)	21

大分電波 21（10−10、6−6、3−0、2−2）18 三島

○…大分・源内、三島・鳥平のロング攻撃を中心としたチームの対戦となり、1点を争う好ゲームとなった。前半は互いに譲らず、

10―10の同点で終了。
後半に入り、互いに源内、鳥平にマンツーマンをかけ、5―5の攻防が続き、大分が先行する形で試合に進み、終了30秒前三島がカットから同点に追いついた。

〔三島〕

	選手	得
GK	福島	0
FP	井上	7
	古川	3
	有田	0
	伊勢坊	1
	小坂	0
	鳥平	4
	白井	0
	山田	3
	戎脇	0
	山本	0
PT	(0)	18

〔電波〕

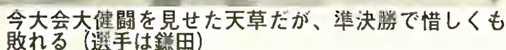
	選手	得
GK	糸永	0
	篠田	0
FP	工藤	0
	湯浅	3
	伊南	0
	石本	2
	大野	0
	園田	5
	高松	1
	源内	10
	藤田	0
	宿利	0
PT	(2)	21

（審・古富、山根）

延長に入り、前半、大分が3点連取し試合を決めた。（赤地）

天草22（10―8、8―10、3―0、1―0）19長崎日大

○…九州大会でも対戦してお互いにプレーを知り尽くしているが、前半は天草ペースで試合が進む。
長崎日大もじりじりと追いすがるが、どうしても追いつかぬまま前半終了。
後半も両チームとも荒っぽいゲーム展開となり、ペナルティの多い試合で延長となる。天草は最後まで全員がよく走り勝ちということだった。（松尾）



今大会大健闘を見せた天草だが、準決勝で惜しくも敗れる（選手は鎌田）

〔長崎〕

	選手	得
GK	法村	0
	増見	0
FP	森賢	4
	森勝	2
	角	0
	中野	3
	喜佐田	3
	林	1
	石本	4
	松本	0
	濱口	1
	稲佐	0
PT	(3)	18

〔天草〕

	選手	得
GK	吉川	0
	松崎	0
FP	鎌田照	7
	浦崎	2
	鎌田弘	0
	山下三	0
	高波	0
	山下和	3
	鎌田雅	5
	山下義	0
	田尻	5
	山下哲	0
PT	(3)	22

（審・中村、長井）

法政二15（5―5、10―5）10明星

○…前半、両チームともセット攻撃に決め手がなく、10分間両チームとも速攻のノーマークシュートを何度もはずし、5―5のロースコアで前半を終わる。後半5分から法政二はサイド、ロングと2点差をつけたところで明星が攻撃にあせり、たて続けに速攻をかけられ試合が決まった。（山根）

〔明星〕

	選手	得
GK	伊藤	0
	山本	0
FP	松本	2
	中里	3
	川上	2
	米山	0
	坂庭	0
	布田	2
	萩原	1
	酒井	0
	清水	0
	三浦	0
PT	(2)	10

〔法政二〕

	選手	得
GK	中山	0
	松本	0
FP	田部	6
	岸	2
	加藤	4
	野崎	1
	鈴木	2
	中澤	0
	服部	0
	杉本	0
	橋井	0
	後藤	0
PT	(0)	15

（審・赤地、岡村）

準決勝

大分電波21（11―8、10―9）17富岡

○…前半、富岡が先取点をあげるが、2分過ぎから9分まで大分が5点連取して引き離す。その後、富岡もジリジリ追い上げるが、大分・源内の7点をあげる踏んばりで11―8で折り返す。後半に入り3分、富岡は13―12と1点差につめ寄るが、前半中ばから源内にマンツーマンをつけた作戦も功を奏さず、速攻、フリースローからのロングと源内の大車輪の活躍で大分が逃げ切った。（古富）

〔富岡〕

	選手	得
GK	清水	0
	園部	0
FP	倉沢	3
	田村	8
	武井	0
	安藤	4
	黒沢	0
	井上	0
	岡部	0
	木部	2
	篠崎	0
	神沢	0
PT	(1)	17

〔電波〕

	選手	得
GK	糸永	0
	篠田	0
FP	工藤	0
	湯浅	0
	伊南	0
	石本	3
	大野	1
	園田	3
	高松	1
	源内	13
	藤田	0
	宿利	0
PT	(0)	21

（審・福田、松尾）

法政二24（7―8、11―10、2―2、4―1）21天草

○…体育館でのゲームとなり、両チームともフェイントの切れが鋭く、スピードのある展開となった。1点を争う好ゲームとなり、後半10分には天草の3点リードとなったが、法政二もよく粘り延長戦となった。
決着は法政二GKの好守から天草にあせりが出て、法政二が決勝戦に進出した。（岡村）

〔天草〕

	選手	得
GK	吉川	0
	松崎	0
FP	鎌田照	7
	浦崎	1
	鎌田弘	0
	山下三	3
	高波	0
	山下和	3
	鎌田雅	5
	山下義	0
	田尻	2
	山下哲	0
PT	(1)	21

〔法政二〕

	選手	得
GK	中山	0
	松本	0
FP	田部	2
	岸	5
	加藤	3
	野崎	4
	鈴木	4
	中沢	5
	服部	1
	杉本	0
	橋井	0
	後藤	0
PT	(2)	24

（審・千野、後藤）

決勝

大分電波22（11―11、11―6）17法政二

○…決勝戦にふさわしく1点を争う好ゲームとなったが、大分電波が粘る法政二を振り切り初優勝を遂げた。
立ち上がり大分が先取し、その後大分・源内のロング攻撃、法政は速攻での点の取り合いとなり、前半は互角の11―11で終了。
後半に入り10分まで13―13と同点で試合は進んだが、11分、大分がPTを決め、その後試合の流れは大分に傾き10分間で6点連取、GKの好守もあって試合を決めた。（赤地）

〔法政二〕

	選手	得
GK	中山	0
	松本	0
FP	田部	0
	岸	3
	加藤	4
	野崎	3
	鈴木	3
	中澤	4
	服部	0
	杉本	0
	橋井	0
	後藤	0
PT	(0)	17

〔電波〕

	選手	得
GK	糸永	0
	篠田	0
FP	工藤	0
	湯浅	2
	伊南	0
	石本	4
	大野	0
	園田	2
	高松	2
	源内	12
	藤田	0
	宿利	0
PT	(1)	22

（審・千野、後藤）

〈女子〉

小松市女、圧倒的強さで7回目の優勝

1回戦

大曲農（秋田）27〔12―4／15―6〕10 添上（奈良）

○…大曲農・今野がポストプレーで先制。その後、千田、後藤などの回り込み、相手ミスからの速攻で加点。一方、添上は大曲農の堅いディフェンスとGKの好守にあい思うように得点できず、12―4で前半を終了。

後半も流れは変わらず、添上は攻めあぐみ、セット攻撃で得点してもミスが多く、大曲農の速攻、千田のロングなどで得点差は開く一方。結局、27―10と大曲農の圧勝に終った。（南波）

得	〔大曲農〕		〔添上〕	得
0	加賀	GK	萩原	0
0	鈴木環		米村	0
2	畑山	FP	東川	2
5	千田		井前	0
4	松塚		木村	1
2	坂本	（審・千野・後藤）	橋崎	4
0	鈴木房		松村	2
5	後藤		徳田	0
1	加賀谷		吉田	1
2	小松		吉村	0
6	今野		檜垣	0
0	佐々木		掛本	0
27	(1)	PT	(1)	10

明倫（神奈川）20〔10―8／10―7〕15 香椎（福岡）

○…立ち上がり香椎は、伸び伸びとしたプレーで4連続得点をして引き離すかに見えたが、明倫は速攻で追いつき、逆転して前半を終わる。後半に入り一進一退をくり返したが、明倫が押し切った。香椎のディフェンスが積極的で大変良かった。（大宮）

得	〔明倫〕		〔香椎〕	得
0	工藤純	GK	村瀬	0
0	榑松			
5	大岡	FP	石田	6
0	石塚		赤星	3
4	中村		柿添	0
4	永井	（審・島崎・井上）	石川	1
2	工藤三		堺	1
2	近藤		山口	2
0	佐々木		今橋	2
0	因泥		木下	0
1	山之内		荒木	0
2	田代		真鍋	0
20	(0)	PT	(1)	15

山陽女（広島）17〔9―4／8―2〕6 コザ（沖縄）

○…両チームとも走力があり、随所に好プレーを見せるなど盛り上がりがあった。山陽は、大型ポストプレーを楯にクロスからのカットイン、切れの良いフェイントで加点、コザも打点の高いロングやカットインで得点を重ねた。両チームのGKの好守も素晴らしいものがあった。山陽は2回の退場を出すほどの激しいディフェンスではあったが、要所に相手のミスを誘うつめの良いディフェンスは速攻に結びつき、点差を開ける原因となった。（千野）

得	〔山陽女〕		〔コザ〕	得
0	小林	GK	比嘉	0
0	斉藤		棚原	0
2	田中	FP	安里	0
2	橋本		沓村	2
0	山本		仲宗根睦	0
6	川井	（審・林・小越）	松田	0
4	稲田		仲宗根裕	3
1	坂本		名幸	0
0	茶村		具志堅	0
0	上田		新垣	0
0	大山		宮国	1
2	長久		古田	0
17	(5)	PT	(2)	6

国学院栃木（栃木）28〔12―6／16―9〕15 佐久（長野）

○…前半10分過ぎまで佐久はノーゴール。その間国学院栃木は着実に加点。佐久のシュートはゴールポストに当てたりはずしたりしてチャンスをつぶす。

後半も国学院のペースで展開、シュート、ディフェンスの力が上の国学院が順当勝ちした。（島崎）

得	〔国学院〕		〔佐久〕	得
0	青木	GK	藤巻	0
0	山本		小須田ゆ	0
2	吉野	FP	吉田	9
0	川田		西島	3
8	神長		工藤	1
13	小島	（審・赤地・岡村）	井出	1
2	小林		戸塚	1
1	森田		北沢	0
1	渡辺		小須田か	0
1	松本		箕輪	0
0	樋口		竹内	0
0	上田			
28	(5)	PT	(2)	15

夙川学院（兵庫）25〔11―7／14―9〕16 高岡商（富山）

○…前半、両チームとも固さが見られなかなか点につながらなかった。5分、夙川・西村の速攻、7分、高岡商・今井のシュートで同点。5本のPTを確実に決めた夙川が4点をリードして前半終了。

後半に入り、夙川が速攻、ポストプレーで得点を重ね、2回戦に進出した。（小越）

得	〔夙川〕		〔高岡商〕	得
0	北山	GK	城宝	0
0	重森		島	0
12	西村	FP	呉谷	0
4	小沼		近藤	0
5	三好		米島	0
1	松田	（審・南波・倉本）	今井	7
0	森下		野村	1
2	上野朝		山崎	1
0	久野		清原	2
1	上野知		江尻	1
0	多田		島木	4
0	上原		石川	0
25	(7)	PT	(4)	16

釧路湖陵（北海道）22〔12―3／10―7〕10 高知東（高知）

○…終始釧路が優位に試合を進め快勝した。前半、攻撃が単調で攻めきれない高知に対して、釧路は早坂のロングシュートなどがよく決まり、9点差で前半を終る。後半に入って高知もよく健闘したが、前半の得点差が大きく、振り切られた。（赤地）

得	〔釧路〕		〔高知〕	得
0	新井田	GK	宮中	0
			永尾	0
5	今井	FP	岡松	1
7	早坂		市木	0
2	中里		児島	2
4	菅原	（審・大宮・切通）	矢野	5
4	鶴島		野口	0
0	清原		川上	0
0	高橋		岡添	0
0	広保		中山	0
0	村上		中司	2
0	斉藤			
22	(1)	PT	(0)	10

彦根商（滋賀）22〔13―1／9―3〕4 米子北（鳥取）

○…前半から彦根商は速攻で得点を重ね、13―1と大量リードを奪った。米子北はセットでの攻めを中心にしていたが、なかなか彦根ディフェンスを崩せなかった。彦根は速攻での位置取りが良く、大量リードを奪ったが、セットでの攻めにもう一つ力不足が感じられる。（角田）

得	〔彦根商〕		〔米子北〕	得
0	石塚	GK	上田	0
0	圓城		相見	0
6	又川	FP	賀川	1
4	大矢		三島	1
0	瀧		村上	0
2	北川	（審・福田・松尾）	岡田	1
6	松田		恩部	0
1	小菅		角口	0
0	小島		吉川	0
1	森		永井	0
1	石田		門脇	1
1	木村		岸本	0
22	(2)	PT	(0)	4

暁（三重）26〔15―3／11―4〕7 佐世保北（長崎）

○…両チームともミスが多いゲームであったが、暁がカットイン、速攻にて着々と得点し、一方的にゲームを進めた。（里）

得	〔暁〕		〔佐世保〕	得
0	稲垣	GK	南	0
0	片岡		梅本	0
2	戸羽	FP	樫山	3
1	石田		黒岩	0
0	中根		森恵	0
1	柴田	（審・古冨・山根）	森宗	4
3	内田		長嶋	0
2	三宅		栗田	0
5	山崎		泊り	0
3	矢野		森美	0
7	中田		中地	0
2	永峰		中本	0
26	(0)	PT	(1)	7

神埼農（佐賀）18〔8―6／10―4〕10 日大山形（山形）

○…神埼農はGKの好守から甲斐の速攻で得点、日大山形もフォーメーションから石川のカットインとお互いに持ち味を生かして一

進一退の展開となった。両チームともにパスミス、キャッチミスが多く、得点の機会を逃していた。
後半始めから神埼農の速攻が冴え、大坪(ち)の連続得点で差を広げた。暑さの中での走り込みをした神埼農が、後半攻守に勝り、その差が試合を決めた。（船越）

〔日大山形〕	得		〔神埼農〕	得
小坂	0	GK	古賀	0
井沢	0		樋口	0
石川	1	FP	甲斐	3
矢萩	0		江島	1
村岡	1		大坪孝	1
細矢	5	（審・中村 長井）	大坪ち	6
小松	2		園田早	1
山岸	1		中村	0
石山	0		丸山	0
鈴木	0		柿永	1
芦野	0		重松	0
小高	0		園田由	5
10	(1)	PT	(1)	18

福井商 13 〔4—5 7—6 2—0 0—1〕 12 本巣
（福井）（岐阜）

○…前半、福井商は藤木を中心に速いボール回しからポストプレーを生かして攻める。一方本巣は、パスカットや相手チームのパスミスを速攻に生かし、GKの好守もあって互角であった。
後半の立ち上がり、福井商は本巣ディフェンスの足が止まっているのに乗じてPTを3本連続して決め、試合の主導権を取った。本巣は、前半に比べ攻撃が単調になっていたが、20分過ぎから追い上げ、延長戦に入る。
延長に入っても福井商が先行、結局1点差で逃げ切った。（石川）

〔本巣〕	得		〔福井商〕	得
杉山	0	GK	小道才	0
長谷部	0		小倉	0
青山	4	FP	米沢	0
鷲見	2		坂本	0
大井	2		藤木	1
加納	3	（審・中村 長井）	竹生	0
田中志	1		伊内	0
河田	0		高橋	1
本郷	0		牧野	0
溝口	0		金子	0
堀	0		小林	0
田中ひ	0		山崎	0
12	(1)	PT	(5)	13

高松商 27 〔14—9 13—13〕 22 佐賀関
（香川）（大分）

○…立ち上がり、佐賀関が橋本のロングでリードを奪ったが、高松商は速攻で追い上げシーソーゲームを展開したが、終盤佐賀関がミスを続発、高松商が5点リードして折り返す。
後半、佐賀関も懸命に反撃するが、高松商GKの好守に阻まれ、前半の差をつめることができなかった。（中村）

〔佐賀関〕	得		〔高松商〕	得
小永吉	0	GK	鎌田	0
下郡宏	0		松川	0
高浪	1	FP	高藤	1
上田	3		桃本	5
狭間	5		末包	0
橋本	6	（審・古冨 山根）	福崎	1
祖田	0		田中	0
徳浦	0		赤根	7
下郡佐	1		橘	9
吉永	6		藤澤	0
田村	0		中山	0
平山	0		木村	4
22	(0)	PT	(0)	27

日川 24 〔12—7 12—9〕 16 西大寺
（山梨）（岡山）

○…日川のペースで試合が展開し、途中西大寺はフリースローからのカットインとミドルシュートで追い上げるが、攻撃力に勝る日川が楽勝した。（里）

〔西大寺〕	得		〔日川〕	得
那須	0	GK	後藤	0
奥山	0		千葉	0
渡辺	0	FP	石田	2
原田	0		土屋	3
岡崎	1		古屋	6
井上	1	（審・中島 上野）	河野	0
山根	0		井戸	1
塩見	0		雨宮	0
乙倉	0		望月	2
小山	2		久保川	0
岩角	10		天野	0
谷口	2		中沢	10
16	(1)	PT	(2)	24

水海道二 27 〔15—3 12—5〕 8 東宇治
（茨城）（京都）

○…水海道二が山岸のフェイント、ロングで2点を先取、試合を優位に進める。その後も着実に加点した水海道が、15—3と大きくリードして前半を終る。
後半に入り東宇治は正木を中心とに健闘、20分過ぎまで互角の展開を見せたが、前半の失点が大き過ぎた。（村上）

〔東宇治〕	得		〔水海道〕	得
村上	0	GK	篠崎	0
西村	0		小松	0
正木	4	FP	林	1
河原	2		田中	3
榊原	2		山岸	2
中辻	0	（審・大村 島田）	小林	8
澤	0		小沼	4
塩塚	0		鈴木	1
植村	0		古谷	5
宇野	0		若林	0
山本	0		石井	1
土岡	0		三輪	2
8	(0)	PT	(5)	27

粉河 13 〔5—6 8—5〕 11 松江市女
（和歌山）（島根）

○…粉河は福島を中心に早い動きで得点すれば、松江市女はミドルシュートとポストプレーで攻撃し、6—5と松江の1点リードで前半を終了する。
後半に入っても両チームの早い攻撃で暑さを感じさせない好ゲームとなったが、試合運びの上手な粉河が、2点差で逃げ切った。（高橋）

〔松江〕	得		〔粉河〕	得
佐野	0	GK	藤平	0
坂浦	0		中尾	0
金津美	0	FP	蓬台	0
山田	4		福島	1
竹下	0		竹内	4
金津チ	0	（審・佐藤 高橋）	山本真	1
菅田	1		山本祐	3
廣江	6		阪口	0
佐藤	0		美馬	1
金沢	0		瀧川	2
三島	0		戸口	1
島田	0		川上	0
11	(0)	PT	(1)	13

藤村女 19 〔6—6 9—9 2—2 2—1〕 18 郡山女
（東京）（福島）

○…前半は両チームとも固さがとれず、互いに凡ミスをくり返し一進一退、同点で後半へ。後半立ち上がり藤村が田鹿のミドルで2点とし優位に立つが、郡山も田鹿にマンツーでつき、ポストシュートなどで追いつき、13分には再び同点。しかし、藤村がフリースローからの田鹿のミドルで再びリード、逃げ切るかに見えたが、終了間際に藤村のパスミスから郡山が追いつき、延長に。
延長では藤村のフォーメーションが決まり、1点差で辛くも逃げ切った。（角田）

〔郡山女〕	得		〔藤村女〕	得
浜尾	0	GK	坂口	0
鈴木	0		明石	0
吉田奈	1	FP	竹野	2
小林	2		菊地	3
大河内	4		田鹿	8
杉田	0	（審・島田 大村）	井出	5
曽部	3		三浦	0
梅津	3		星野	1
古旗	0		吉形	0
斉藤	0		本橋	0
柳内	5		長嶋	0
吉田真	0		澤潟	0
18	(3)	PT	(2)	19

本庄 22 〔12—3 10—5〕 8 新潟江南
（宮崎）（新潟）

○…両チームとも立ち上がり固さが目立ったが、本庄は3分、速攻から自らのペースをつかみ、徐々に加点していった。対する新潟江南は、ミスが多く、攻め手なく前半を終った。後半、本庄は速攻が冴え、ますます差を広げた。シュート力などすべての面で本庄が勝っていた。（不明）

〔江南〕	得		〔本庄〕	得
伊藤真	0	GK	武田	0
結城	0		坂田	0
須藤	0	FP	吉瀬	1
古泉	1		永尾	10
渡辺	3		井上	3
伊藤留	1	（審・中野 高橋）	新坂	1
加藤	3		金子	3
五十嵐	0		東郷	4
阿部	0		佐藤	0
高橋	0		日高	0
源川	0		梅田	0
倉島	0		後藤	0
8	(1)	PT	(4)	22

2回戦

小松市女 46 〔22—4 24—1〕 5 大曲農
（石川）

○…小松市女は、大曲農のパスミスを誘い、速攻に結びつけて加点した。大曲農もロングなどで応戦するが、小松市女のディフェン

スを崩すことができず、絶えず速攻をかけられ大敗した。（山根）

〔大曲農〕		得
GK	加賀	0
	鈴木環	0
FP	畑山	0
	千田	1
	松塚	1
	坂本	1
	鈴木房	0
	後藤	2
	加賀谷	0
	小松	0
	小友	0
	今野	0
PT	(1)	5

（審・島田 大村）

〔小松〕		得
GK	木戸	0
	岩井	0
FP	千秋	8
	松田	4
	林	4
	堀川	1
	西田	3
	桜井	11
	上田	2
	奥村	5
	池田	6
	谷本	2
PT	(1)	46

明倫 22 〔14—1 / 8—5〕 6 富岡東（徳島）

○…両チームとも立ち上がり固くなり、前半5分まで得点がなかったが、明倫が1点取ってから動きが良くなり、ペースをつかんで着々と加点、一方的にゲームを進めた。富岡東はミスが多く、攻め手がなく大差で終る。（里）

〔富岡東〕		得
GK	辻	0
	数藤	0
FP	浜	0
	生田	2
	板東	1
	藤田	0
	福田	0
	美田	0
	秋田	2
	真崎	0
	湯村	1
	布川	0
PT	(0)	6

（審・福田 松尾）

〔明倫〕		得
GK	工藤純	0
	榑松	0
FP	大岡	5
	石塚	0
	中村	5
	永井	1
	工藤三	2
	近藤	2
	佐々木	0
	因泥	1
	山之内	3
	田代	3
PT	(0)	22

山陽女 21 〔10—6 / 11—2〕 8 静岡城北（静岡）

○…両チーム同じようなチームカラーで、走りを生かしてのフェイント、早い動き、パスなどで攻撃し、好ゲームを展開した。ややシュート力の差とGKの好守で山陽女が点差を開き、後半も山陽女ペースの試合ではあったが、静岡城北も頑張り、最後まで盛り上げた。（島田）

〔城北〕		得
GK	高原	0
	石垣	0
FP	酒井	0
	小野	2
	山内	1
	朝比奈	4
	桑原	0
	小俣	0
	石上	0
	島津	1
	大原	0
	鈴木	0
PT	(3)	8

（審・中島 上野）

〔山陽女〕		得
GK	小林	0
	斉藤	0
FP	田中	8
	橋本	2
	山本	1
	川井	8
	稲田	1
	坂本	1
	森山	0
	茶村	0
	上田	0
	長久	0
PT	(1)	21

国学院栃木 21 〔9—6 / 12—6〕 12 聖和学園（宮城）

○…両チームミスが多く、6分間得点なしのゲーム。国学院は2本のPTもはずし、どちらのチームが早くペースにのれるかという展開。動きは国学院が良く、聖和も頑張るが動きが少し物足りず、それがディフェンスに表われて点となった。（松尾）

〔聖和〕		得
GK	宗片	0
	赤間	0
FP	渡部	2
	郡山	2
	中井	0
	森屋	2
	板橋	2
	菅井	0
	田島	4
	鈴木	0
	遠藤	0
	芳田	0
PT	(1)	12

（審・大宮 切通）

〔国学院〕		得
GK	青木	0
	山本	0
FP	吉野	5
	川田	3
	神長	3
	小島	5
	小林	1
	森田	0
	平松	1
	樋口	3
	下郷	0
	上田	0
PT	(2)	21

群馬女短付 22 〔7—8 / 11—10 / 2—2 / 2—1〕 21 夙川学院（群馬）

○…立ち上がりすぐ群馬女短付がPTを得て1点を先取、7分まで3—0とする。固さの見られた夙川は、7分過ぎにようやくサイドから決め、上野の3連続得点で同点に。以後一進一退の展開を見せて夙川の1点リードで前半を終了。後半も追いつ追われつの展開で、終了間際に夙川がPTで追いつき延長戦に。

延長も一進一退のゲームとなったが、群馬女短付が1点差で逃げ切った。気力のあふれた好ゲームであった。（中島）

〔夙川〕		得
GK	北山	0
	重森	0
FP	西村	7
	小沼	4
	三好	3
	松田	1
	森下	0
	上野朝	0
	久野	0
	上野知	6
	多田	0
	上原	0
PT	(5)	21

（審・山根 古冨）

〔群馬〕		得
GK	大木	0
	高井	0
FP	富山	0
	黒沢	1
	土田	1
	清水	0
	飯塚	6
	秋山	0
	川田	9
	生方	5
	小柏	0
	佐藤	0
PT	(2)	22

熊本女商 32 〔16—7 / 16—5〕 12 釧路湖陵（熊本）

○…開始から熊本は速攻で2連続得点を入れて試合のリズムをつかみ、釧路を全く寄せつけず、一方的なゲームとなった。（大宮）

〔釧路〕		得
GK	新井田	0
FP	今井	1
	早坂	8
	中里	0
	菅原	1
	鶴島	2
	清原	0
	高橋	0
	広保	0
	村上	0
	斉藤	0
PT	(1)	12

（審・里 萬場）

〔熊本〕		得
GK	清田	0
	平田	0
FP	河上	5
	酒井	3
	斉藤	7
	河野	4
	田野辺	1
	土本	5
	山本	1
	久保田	3
	内田	2
	吉丸	1
PT	(0)	32

岩国商 22 〔13—12 / 9—4〕 16 彦根商（山口）

○…両チームともよく走り点の取り合いとなる。前半残り5分で彦根商が3点をリードしていたが、岩国商はここから反撃、逆に1点をリードして前半を終了。後半に入っても、走力の勝る岩国商が速攻で得点を重ね、そのまま逃げ切った。（田原）

〔彦根商〕		得
GK	石塚	0
	圓城	0
FP	又川	4
	大矢	2
	瀧	2
	北川	1
	小菅	0
	小島	0
	小島	0
	森	3
	石田	1
	木村	1
PT	(4)	16

（審・島崎 井上）

〔岩国商〕		得
GK	中村	0
	石井	0
FP	桑田	0
	国広	1
	西村	0
	沖田	3
	増田	5
	横田	8
	蔵野	0
	石村	4
	香井	1
	竹内	0
PT	(0)	22

暁 22 〔7—7 / 15—9〕 16 川口青陵（埼玉）

○…ポストプレーを多用する攻撃パターンの似たチームであった。立ち上がり、川口青陵が2本のPTでリードする。暁は、ノーマークのサイドシュート、ポストシュートが連続してポストに当たる不運があったが、中盤、川口青陵・村田にマンツーマンにつき、徐々に点差をつめて同点で前半を終了。

後半、速攻が決まりだした暁が着実に得点していった。川口青陵も細かいパスプレーで応じたが、及ばなかった。（船越）

〔青陵〕	得		〔暁〕	得
半藤	0	GK	稲垣	0
太田	0	GK	片岡	0
天野	3	FP	戸羽	0
斉藤	3	FP	石田	0
宮下	0	FP	中根	0
中野悦	1	FP	柴田	0
七木田	2	FP	内田	5
中野有	1	FP	三宅	1
佐藤	5	FP	山崎	2
厚沢	0	FP	矢野	5
村田	0	FP	中田	5
萩原	1	FP	永峰	4
(3)	16	PT	(1)	22

（審・田原、森山）

宣真 27（14−3、13−8）11 神埼農
（大阪）

○…立ち上がり神埼のロングシュートで2得点を許した宣真であったが、その後動きの速いディフェンスで相手ミスを誘い、7点を連取して7−2とする。宣真は、キャプテン赤山のきれの良い動きから出されるパスで神埼のディフェンスを崩し、走っては永井の速攻で着実に得点を重ね、神埼につけ入るスキを与えなかった。（後藤）



大活躍を見せた宣真だが、準決勝の壁は破れなかった（写真は赤山選手）

〔神埼農〕	得		〔宣真〕	得
古賀	0	GK	竹田	0
樋口	0	GK	深井	0
甲斐	0	FP	瀬恒	2
江島	1	FP	三橋	1
大坪孝	5	FP	進藤	0
大坪ち	0	FP	金山	2
園田早	0	FP	赤山	8
中村	0	FP	武田	2
丸山	0	FP	神西	0
柿永	0	FP	永井	9
園田由	5	FP	津田	3
北島	0	FP	岸本	0
(3)	11	PT	(3)	27

（審・南波、倉本）

昭和学院 14（5−6、9−5）11 福井商
（千葉）

○…一進一退の好ゲームで、昭和が接戦をものにした。

立ち上がりは福井が好調で10分には4−0とリードしたが、昭和も座間のロング攻撃などで20分には5−5と同点に追いつき、結局6−5と福井の1点リードで前半を終る。

後半に入り、福井が10分に10−7とリードするが、昭和も15分には再び10−10と同点に追いつき、その後も激しい攻防を展開、22分に昭和がPTを決めて12−11と逆転、決着をつけた。（赤地）

〔福井商〕	得		〔昭和〕	得
小道才	0	GK	松丸	0
小倉	0	GK	石田	0
米沢	4	FP	藤原	1
坂本	2	FP	高橋	3
藤木	1	FP	伊原	1
竹生	1	FP	座間	4
伊内	0	FP	高柳も	2
高橋	3	FP	井口	0
牧野	0	FP	高柳ふ	1
金子	0	FP	小林	0
小林	0	FP	田村	2
山崎	0	FP	熱田	0
(1)	11	PT	(4)	14

（審・南波、倉本）

徳山商 23（10−10、13−4）14 高松商
（山口）

○…前半、先手を取った高松はリズムに乗り、一方徳山は初戦のためかミスが目立ちリードを守り切れず同点で終った。

後半の立ち上がり、徳山は相手のミスに乗じ連続得点し、その後は一方的なゲームとなり、徳山商が勝利を手にした。

高松商は、セットでのオフェンスに攻め手を欠いたのが敗因と思われた。（岡村）

〔高松商〕	得		〔徳山商〕	得
鎌田	0	GK	中嶋	0
松川	0	GK	世良	0
高藤	1	FP	原田	1
桃本	3	FP	靏本	1
末包	0	FP	藤原	3
福崎	0	FP	貞本	10
田中	0	FP	福成寺	3
赤根	3	FP	和田	3
橘	5	FP	田口	0
藤澤	0	FP	小林	2
中山	0	FP	北辰	0
木村	2	FP	川崎	0
(0)	14	PT	(0)	23

（審・千野、後藤）

日川 26（13−2、13−7）9 盛岡二
（岩手）

○…単調な攻撃の盛岡二に対し日川は速攻を中心にシュートを確実に決め、13−2で前半を終了。後半に入っても、走力、パスワークで上回る日川が着実に点を重ね勝利を得た。

盛岡二は、ファールによる退場によって苦しい試合展開となった。（小越）

〔盛岡二〕	得		〔日川〕	得
西川	0	GK	後藤	0
島田	0	GK	千葉	0
鈴木	1	FP	石田	1
杉沢	0	FP	土屋	2
兼平	0	FP	古屋真	7
藤島	4	FP	河野	1
片岸	0	FP	井戸	2
沢田	0	FP	望月	2
熊谷	0	FP	雨宮	1
北村	2	FP	久保川	0
村井	0	FP	中沢	7
高橋	2	FP	古屋知	3
(0)	9	PT	(6)	26

（審・高橋、野中）

牧園 13（6−5、7−6）11 水海道二
（鹿児島）

○…大型の水海道、小柄な牧園が15分まで1−1のロースコアのゲーム。その後、牧園が2本のパ

〔水海道〕	得		〔牧園〕	得
篠崎	0	GK	川島	0
小松崎	0	GK	内堀	0
林	0	FP	吉森	1
田中	1	FP	境田	0
椎名	0	FP	簗瀬	5
山岸	1	FP	倉田	1
小林	3	FP	蜂須賀	0
小沼	4	FP	池田	5
鈴木	0	FP	内田	0
古谷	1	FP	米村	1
若林	1	FP	松元	0
三輪	0	FP	五百路	0
(3)	11	PT	(1)	13

（審・中村、長井）

スカットから2点を連取、ゲームが活発化してきたが、互いにディフェンスが荒く、退場の多い試合となった。

後半になると15分過ぎまでよく走った牧園のペースで試合が進むが、水海道もよく頑張り追い上げたが、僅かに及ばず牧園が逃げ切った。（村上）

粉河 21 〔9—8／12—9〕 17 青森西（青森）

○…立ち上がりは粉河が優勢であったが、青森西は7分過ぎから3点連取し、一時は逆転した。しかし、粉河は上手くポストへパスを通しPTを得、再びリードする。その後互いに点を取り合いシーソーゲームとなるが、パスワークで一日の長がある粉河が逃げ切った。（古富）

得 0 0 5 3 0 0 3 1 1 4 0 0　17
〔青森西〕倉山谷谷崎藤林田川本村内
肴杉熊高宮工小貴藤山川荒　(1)
GK　FP（審・高橋　野中）　PT
〔粉河〕平尾台島内真祐口馬川口幣（本本）　(5)
藤中蓬福竹山山阪美瀧戸高
得 0 0 0 4 5 2 2 0 5 3 0 0　21

藤村女 13 〔5—5／8—6〕 11 今治北（愛媛）

○…開始1分、今治北PTで得点。一方藤村女は、本橋のロングシュートで同点とする。その後藤村は田鹿のロングなどで加点、3点をリード。藤村のロングシュート主体からの攻めに対し、今治北は井手を中心に早い動きとボールの回しで攻撃、14分に同点として、結局前半は5—5で終了。

後半もお互いに持ち味を出し、一進一退の好ゲーム。結局、13—11で藤村女が勝利をにぎった。（高橋）

得 0 0 1 6 0 0 1 3 0 0 0 0　11
〔今治北〕辺田比出崎井宮藤澤井田原
渡須明井尾村本近大徳織木　(4)
GK　FP（審・村上　角田）　PT
〔藤村女〕口石野地鹿出浦野形橋潟村　(2)
坂明竹菊田井三星吉本澤中
得 0 0 3 0 7 1 1 0 0 1 0 0　13

名短付（愛知）10 〔3—4／7—5〕 9 本庄

○…名短付・岩野のステップシュートで先行。10分過ぎまで両チームとも攻め手がないまま進む。お互いシュートミスからの速攻で同点、前半終了間際、本庄・新坂がPTを決め4—3で折り返す。

後半に入り、両チームとも動き走りが出だし、一進一退。名短付は終了1分前、岩野がPTを決め辛くも1点差で逃げ切った。（林）

得 0 0 1 4 0 2 1 1 0 0 0 0　9
〔本庄〕田田瀬尾上坂子郷藤高田藤
武坂吉永井新金東佐日梅後　(1)
GK　FP（審・赤地　岡村）　PT
〔名短付〕山永田上渕羽須野野床井枝　(1)
村徳伊豫村河丹那岩日々寺岩国
得 0 0 2 0 1 0 2 3 2 0 0 0　10

3回戦

小松市女 22 〔9—3／13—3〕 6 明倫

○…力に勝る小松は、立ち上がり林のロングが決まらずわずかに苦しんだが、12分過ぎ林のロングが決まり始めると試合は完全に小松ペースとなった。小松は、キャプテン松田を中心に早い動きで明倫ディフェンスを崩し、林のロングシュートを導いたが、明倫は最後まで小松ディフェンスを崩せず苦しまぎれのシュートやポストへのパスが小松の逆速攻となり、点差を開けられた。（後藤）

得 0 0 1 0 1 1 0 0 0 0 3 0　6
〔明倫〕純松岡塚村井三藤木泥内代（藤、々之）
工樽大石中永工近佐因山田（藤）　(0)
GK　FP（審・萬里　場）　PT
〔小松〕戸井秋田　林　川田井田村　本　(1)
木岩千松　堀西桜上奥　橘　谷
得 0 0 1 6 7 1 0 2 4 1 0 0　22

国学院栃木 17 〔10—5／7—8〕 13 山陽女

○…前半、立ち上がり互角の試合展開であったが、国学院は相手のミスを得点とし、10—5で終る。後半、山陽女は5点差を速攻などで追い上げ、一時は同点としたが、国学院は残り3分から相手ミスを連続して加点、突き放して勝った。（萬場）

得 1 0 2 0 2 7 0 1 0 0 0 1　13
〔山陽女〕林藤中本本井田本村田山久
小斉田橋山川稲坂茶上大長　(2)
GK　FP（審・中島　上野）　PT
〔国学院〕木本野田長林田辺本口郷　(3)
青山吉川神小森渡松樋下
得 0 0 0 1 4 8 0 0 0 0 0　17

熊本女商 24 〔11—6／13—12〕 18 群馬女短附

○…前半は熊本の出足が良く、連続得点を重ねて順調な滑り出し。群馬のペースが出てきて11—6で前半を終了。

後半は熊本・斉藤を中心とした攻撃、群馬はフォーメーションのポストシュートが決まり、点の取り合いとなったが、熊本の攻撃力が一枚上だった。（島崎）

得 0 0 0 0 1 5 7 0 0 5 0 0　18
〔群馬〕木井山沢田水塚山田方柏藤
大高畠黒土清飯秋川生小佐　(2)
GK　FP（審・南波　倉本）　PT
〔熊本〕田田上井藤野辺本本田田林（野、保）　(5)
清平河酒斉河田土山久内栗
得 0 0 2 5 13 2 2 0 0 0 0 0　24

岩国商 17 〔5—10／12—4〕 14 晩

○…立ち上がり晩の速攻がよく決まり、10分まで6—2とリード

する。岩国も横田のサイドシュートなどで反撃したが、GKの好守などで暁が10―5とリードして前半を終了する。
後半、勝ちを意識したのか暁の動きが止まり、攻め手がなくなってきた。これに対して岩国の両サイドはよく走り、大差だった点数を着々と追い上げ、19分に遂に逆転。残り3分間大熱戦を展開し、好ゲームであった。（切通）

〔暁〕	得
稲田（GK）	0
片岡（GK）	0
戸羽	0
石田	0
中根	0
柴田	0
内田	1
三宅	3
山崎	1
矢野	3
中田	2
永峰	4

14　(0)　PT　(1)　17

（審・島崎・井上）

〔岩国商〕	得
中村（GK）	0
石井（GK）	0
桑田	0
国広	0
西村	1
沖田	2
増田	3
横田	8
蔵田	0
石村	2
香井	1
竹内	0

宣　真11（5―5、6―5）10昭和学院

○…宣真は永井にマンツーをつかれ、攻めに苦しみながらも前半同点で折り返す。後半に入ってからは、宣真のキャプテン赤山のステップ、ジャンプシュートがよく

〔昭和〕	得
松丸（GK）	0
石田（GK）	0
藤原	1
高橋	2
伊原	0
座間	5
高柳も	0
井口	1
高柳ふ	1
小林	0
田村	0
熱田	0

10　(0)　PT　(1)　11

（審・高橋・佐藤）

〔宣真〕	得
竹田（GK）	0
深井（GK）	0
瀬恒	0
三橋	0
金山	0
赤山	7
武田	2
福西	0
永井	1
津田	1
田中	0
岸本	0

決まり、3点リードして終るかに見えたが、残り3分で昭和もよく粘り追いついたが、後半立ち上がりの得点がものをいって宣真が逃げ切った。（田原）

徳山商20（8―8、12―9）17日　川

○…前半、日川はずらしからのサイド攻撃とロングを中心に、徳山商はロングと速攻でそれぞれ加点していき、同点で終了。後半、徳山商は貞本にマンツーマンされリズムを崩しかけたが、福成寺にもマンツーされ、4対4の攻防となって逆にチャンスをつかんだ。
日川の後半の得点はほとんどロングシュートで、前半もう少し出ていたらと惜しまれる。（岡村）

〔日川〕	得
後藤（GK）	0
千葉（GK）	0
石田	2
土屋	4
古屋真	6
河野	0
井戸	0
望月	0
雨宮	0
久保川	0
天野	0
中沢	5

17　(1)　PT　(0)　20

（審・松尾・福田）

〔徳山商〕	得
中島（GK）	0
世良（GK）	0
原田	4
靍本	2
藤原	2
貞本	3
福成寺	5
和田	2
田口	0
坂村	0
小林	2
北辰	0

牧　園17（9―9、8―5）14粉　河

○…両チームともスピードのある攻防で、好感の持てるチームである。前半、牧園が速攻でリードするが、粉河も落着いたパス回しからのロングシュートなどで同点にして終了する。
後半、小刻みに選手交代した粉河が速攻でリードするが、牧園もよく頑張り、残り5分で逆にリードして逃げ切った。
牧園の終了直前のファイトあるプレーは立派だった。（船越）

〔粉河〕	得
藤井（GK）	0
中尾（GK）	0
蓬台	0
福島	3
竹内	2
山本真	0
山本祐	4
阪口	0
美馬	0
瀧川	5
戸口	0
高幣	0

14　(6)　PT　(3)　17

（審・島田・大村）

〔牧園〕	得
川島（GK）	0
内堀（GK）	0
吉森	0
境田	2
築瀬	7
倉田	4
蜂須賀	0
池田	1
内田	1
米村	2
松元	0
五百路	0

名短付24（15―7、9―6）13藤村女

○…立ち上がり藤村が得点し、名短付が追う形でゲームが展開。10分過ぎから藤村の動きが悪くなったところを、名短付全員がよく走り、速攻で点差を開いた。
後半、名短付の雑な攻めもあり、藤村もよく頑張ったが、走力に勝る名短付が逃げ切った。（野中）

〔藤村女〕	得
坂口（GK）	0
明石（GK）	0
竹野	0
菊地	0
田鹿	3
井出	2
三浦	5
星野	1
吉形	1
本橋	1
澤潟	0
中村	0

13　(3)　PT　(1)　24

（審・中村・長井）

〔名短付〕	得
村山（GK）	0
徳永（GK）	0
伊豫田	6
村上	4
河渕	1
丹羽	0
那須	3
岩野	4
日比野	3
寺床	3
岩井田	0
国枝	0

準々決勝

小松市女22（11―6、11―3）9国学院栃木

○…前半、小松市女が松田の巧技を中心に加点するのに対し、国学院栃木は神長、小島を中心によくくらいついて11―6で折り返す。後半も国学院は粘りを見せるが、小松市女のオーバーディフェンスに攻撃の芽をつまれ、得点が伸びなかった。（古冨）

〔国学院〕	得
青木（GK）	0
山本（GK）	0
吉野	4
川田	0
神長	3
小島	2
小林	0
森田	0
渡辺	0
松本	0
樋口	0
下郷	0

9　(0)　PT　(3)　22

（審・里・萬場）

〔小松〕	得
木戸（GK）	0
岩井（GK）	0
千秋	2
松田	5
林	9
堀川	1
西田	0
桜井	3
上田	0
奥村	2
池田	0
橋	0

熊本女商14（6―5、5―6、2―0、1―2）13岩　国　商

○…前半、熊本は斉藤のロングで2点を取ったが、岩国の浮き気味のディフェンスを攻めあぐみ、なかなか得点できない。一方岩国は、パスカットや相手のパッシブプレーなどから速攻に出るが、GKの好守に合い、またシュートミスも目立ち、熊本1点リードで終了。
後半に入っても、熊本はローリングオフェンスからロングポスト、岩国は横田の巧いパスカットから速攻と攻撃パターンは変らず、一

進一退で延長に入った。
延長も一進一退であったが、最後に熊本・斉藤のロングが決まり、セットオフェンスの熊本が、速攻の岩国をわずかに制したゲームだった。（倉本）

	〔岩国〕	得
GK	中村	0
	石井	0
FP	桑田	0
	国広	0
	西村	1
	沖田	1
	増田	3
	横田	4
	蔵野	0
	石村	2
	香井	2
	竹内	0
PT	(1)	13

審・福田／松尾

	〔熊本〕	得
GK	清田	0
	平田	0
FP	河上	2
	酒井	2
	斉藤	5
	河野	4
	田野辺	1
	土本	0
	山本	0
	久保田	0
	内田	0
	栗林	0
PT	(0)	14

宣真 25 〔13—11／12—10〕 21 徳山商

○…立ち上がりから点の取り合いとなり、宣真は赤山からずらして永井のカットイン、そして金山へのサイド合わせで着実に加点。一方、徳山商は貞本を中心にロング、ポストで加点、13—11の宣真リードで終る。
後半、両チームはマンツーマンをつけ、オフェンスを崩しにかかったが、サイドシュートを確実に決めた宣真が25—21でベスト4進出を果たした。（岡村）

	〔徳山商〕	得
GK	中嶋	0
	世良	0
FP	原田	1
	鶴本	1
	藤本	2
	貞本	7
	福成寺	7
	和田	2
	田口	0
	板村	0
	小林	1
	北振	0
PT	(9)	21

審・千野／後藤

	〔宣真〕	得
GK	竹田	0
	深井	0
FP	瀬恒	2
	三橋	0
	金山	5
	赤山	9
	武田	3
	福西	0
	永井	5
	津田	1
	田中	0
	岸本	0
PT	(2)	25

名短付 26 〔14—5／12—3〕 8 牧園

○…名短付は攻防一体となり、よく走り、シュートチャンスを作りながら、ロングから、ポストから、サイドからと確実に得点する。一方、牧園は攻撃のパターンの時にコンビネーションが合わず、パスミスなどのため相手方にボールを与え敗退した。（井上）

	〔牧園〕	得
GK	川島	0
	内堀	0
FP	吉森	0
	境田	1
	簗瀬	2
	倉田	2
	蜂須賀	0
	池田	2
	内田	0
	米村	1
	松元	0
	五百路	0
PT	(0)	8

審・南波／倉本

	〔名短付〕	得
GK	村山	0
	徳永	0
FP	伊豫田	4
	村上	6
	河渕	0
	丹羽	0
	那須	3
	岩野	6
	日比野	4
	寺床	2
	岩井田	1
	国枝	0
PT	(4)	26

準決勝

小松市女 23 〔13—2／10—5〕 7 熊本女商

○…小松市女は林を中心にミドルシュート、カットインシュートなど多彩な攻撃で熊本ディフェンスをゆさぶり、着々と得点を重ねる。一方熊本女商は、小松の早い動きのディフェンスを破ることができず、13分斉藤のミドルシュートで、また22分、河野のゲットした2点にとどまり、13—2の大差で前半を終了。
後半立ち上がり、熊本はカットインシュートと斉藤の連続ゲットでペースに乗ったかと思われたが、小松のペースは前半と同様スピードある攻撃で熊本ディフェンスを切り崩し、確実に得点を伸ばし、23—7と熊本を全く相手にせず、春の選抜優勝校らしいゲーム運びであった。（福田）

	〔熊本〕	得
GK	清田	0
	平田	0
FP	河上	0
	酒井	0
	斉藤	5
	河野	2
	田野辺	0
	土本	0
	山本	0
	久保田	0
	内田	0
	栗林	0
PT	(1)	7

審・赤地／岡村

	〔小松〕	得
GK	木戸	0
	岩井	0
FP	千秋	3
	松田	3
	林	9
	堀川	1
	谷本	0
	桜井	4
	上田	3
	奥村	0
	池田	0
	橋	0
PT	(6)	23

名短付 20 〔11—5／9—8〕 13 宣真

○…名短付は、立ち上がりから小技とロングシュートがよくかみ合い、順調な滑り出し。対する宣真は、よく走るもセットプレーで名短付の動きの速いディフェンスをなかなか破れず、またノーマークシュートをGKの好守に阻まれ点差を開けられる。
宣真は、前半14分から連続3本のPTを与えられた追い上げのチャンスに2本をはずし、自ら試合を苦しいものにし、決勝に進出することができなかった。（後藤）

	〔宣真〕	得
GK	竹田	0
	深井	0
FP	瀬恒	0
	三橋	1
	金山	1
	赤山	4
	武田	1
	福西	0
	永井	6
	律田	0
	田中	0
	岸本	0
PT	(3)	13

審・古冨／山根

	〔名短付〕	得
GK	村山	0
	徳永	0
FP	伊豫田	2
	村上	5
	河渕	0
	丹羽	0
	那須	4
	岩野	3
	日比野	2
	寺床	4
	岩井田	0
	国枝	0
PT	(1)	20


圧倒的強さを見せた小松市女のエース・林

決勝

小松市女 20 〔10—5／10—10〕 15 名短付

○…決勝戦は予想通り小松市女対名短付となったが、立ち上がり小松は相手のミスから得点を重ねていき、小松のペースで試合を進めていった。
後半、名短付は5本のPTと岩野、日比野のミドルシュートで互角に戦ったが、総合力に勝る小松が高校チャンピオンの座についた。（岡村）

	〔名短付〕	得
GK	村山	0
	徳永	0
FP	伊豫田	0
	村上	1
	河渕	0
	丹羽	0
	那須	1
	岩野	7
	日比野	4
	寺床	0
	岩井田	0
	国枝	2
PT	(5)	15

審・古冨／山根

	〔小松〕	得
GK	木戸	0
	岩井	0
FP	千秋	2
	松田	6
	林	9
	堀川	0
	西田	0
	桜井	2
	上田	1
	奥村	0
	池田	0
	谷本	0
PT	(5)	20

男子 境港クラブ 女子 FCC が初の栄冠に

第6回全国クラブ選手権大会は8月15日から17日までの3日間、福井県営体育館で開催された。

男子は、元全日本のベテラン選手を揃えた大同ク（愛知）を境港ク（鳥取）がはつらつとしたプレーで圧倒、初優勝を飾った。

一方女子は、FCC（　）とジャスコあゆみク（三重）が熱戦を展開、FCCが逃げ切ってやはり初の栄冠を飾った。

男子

▼予選リーグ

○A組

桜門ク（東京）　15—7　東山ク（京都）

〔順位〕①桜門ク②東山ク

○B組

日川ク（山梨）　19—12　生駒ク（奈良）

〔順位〕①日川ク②生駒ク

○C組

湯沢ク（秋田）　17—13　岩国ク（山口）

岩国ク　27—14　静農ク（静岡）

湯沢ク　30—14　静農ク

〔順位〕①湯沢ク②岩国ク③静農ク

○D組

氷見ク（富山）　27—13　ソニー国分ク（鹿児島）

茨苑ク（茨城）　23—16　ソニー国分ク

茨苑ク　18—17　氷見ク

〔順位〕①茨苑ク②氷見ク③ソニー国分ク

○E組

雪陵ク（大阪）　25—17　江津ク（新潟）

江津ク　29—11　前橋ク（群馬）

雪陵ク　28—20　前橋ク

〔順位〕①雪陵ク②江津ク③前橋ク

○F組

大同ク（愛知）　32—8　羽球会（福井）

野辺地ク（青森）　33—10　羽球会

大同ク　25—13　野辺地ク

〔順位〕①大同ク②野辺地ク③羽球会

○G組

高知ク（高知）　27—14　八幡ク（滋賀）

光陽会（福井）　18—17　八幡ク

高知ク　29—15　光陽会

〔順位〕①高知ク②光陽会③八幡ク

○H組

境港ク（鳥取）　32—17　柏崎ク（新潟）

学芸球駿会（東京）　25—17　柏崎ク

境港ク　22—13　学芸球駿会

〔順位〕①境港ク②学芸球駿会③柏崎ク

▼決勝トーナメント1回戦

桜門ク 25（14—8、11—5）13 生駒ク

境港ク 28（20—11、8—6）17 野辺地ク

光陽会 26（12—12、14—13）25 雪陵ク

茨苑ク 21（11—8、10—7）15 岩国ク

湯沢ク 24（10—8、14—11）19 氷見ク

大同ク 30（15—7、15—9）16 学芸球駿会

高知ク 16（8—8、8—7）15 江津ク

日川ク 28（13—4、15—6）10 東山ク

▼準々決勝

境港ク 24（12—6、12—8）14 桜門ク

茨苑ク 27（15—5、12—9）14 光陽会

大同ク 33（21—13、12—7）20 湯沢ク

日川ク 33（16—8、17—5）13 高知ク

▼準決勝

境港ク 27（14—5、13—6）11 茨苑ク

○…前半、6分過ぎまで得点が入らず緊迫したゲームが続いたが、境港の児玉が初得点をあげゲームが動き出した。10分過ぎより、境港は速いパス回しで得点を重ね、茨苑との差を広げた。

後半の5分まではお互いに点の取り合いとなったが、その後は境港が固いディフェンスで得点を許さず、よく走り得点をあげていった。

大同ク 30（14—10、16—6）16 日川ク

○…元オリンピック選手ばかりのベテラン大同に対するは今年度国体を控えチーム強化をしている若い日川クラブ。

前半、両チームとも個人技を中心とした攻撃でゲームを展開。大同はややディフェンスの甘さを見せる日川のスキをついてベテラン大原のカットイン、更谷のサイドシュートなどで着々と加点、前半を16—6と大きく引き離した。

後半に入っても大同は攻撃の手をゆるめず加点していくが、粘る日川も菊島のロングシュートを軸

に全員よく動き、最後の意地を見せたが、結局試合経験豊富な大同が勝利をつかんだ。

▼決勝

境港ク19（11－5、8－9）14大同ク

○…大同・中井のロングシュートで先制するが、疲れの見える大同の動きとは対照的に境港は速攻にて続々と得点を重ねる。大同は藤中のロングシュートが決まらず苦戦し、前半は境港が11－5とリードして終了。

後半の立ち上がり、大同・大原のボールカットやサイドシュートや小間のカットプレー、スカイプレーなど多彩な攻撃で圧倒し、終始リードを保ち逃げ切る。

〔大同〕	得		〔境港〕	得
小野	0	GK	足川	0
柳川清	0	FP	渡井	0
柳川実	3		西村	0
藤中	1		望月	4
加藤	0		田中	6
中井	3		古賀	3
清崎	0		児玉	3
更谷	0		荒木	0
桑幡	0		松井	1
大原	7		小沢	0
			六車	0
			小間	2
14	(2)	PT	(2)	19

（審・古橋、阿部羅）

女子

▼予選リーグ

○イ組

武蔵野ク（東京）10－8 古都ク（京都）

〔順位〕①武蔵野ク②古都ク

○ロ組

FCC（福岡）15－6 日川ク（山梨）

FCC 21－7 光陽会（福井）

日川ク 17－8 光陽会

〔順位〕①FCC②日川ク③光陽会

○ハ組

天城ク（岡山）11－8 全福井（福井）

全福井 13－8 静岡城北ク（静岡）

静岡城北ク 11－10 天城ク

〔順位〕①天城ク②全福井③静岡城北ク※得失点差による。

○ニ組

ジャスコあゆみク（三重）11－8 大和ク（大阪）

大和ク 15－11 広島ク（広島）

ジャスコあゆみク 15－6 広島ク

〔順位〕①ジャスコあゆみク②大和ク③広島ク

○ホ組

滋賀ク（滋賀）17－3 小松商OGク（石川）

滋賀ク 18－4 御城ク（茨城）

御城ク 12－5 小松商OGク

〔順位〕①滋賀ク②御城ク③小松商OGク

▼決勝トーナメント1回戦

日川ク18（6－5、12－7）12全福井

大和ク25（13－3、12－3）6御誠ク

▼準々決勝

武蔵野ク13（6－6、7－3）9日川ク

ジャスコあゆみク20（7－5、13－2）7滋賀ク

古都ク21（11－3、10－5）8天城ク

FCC26（5－11、12－6、2－1、1－2、3－0、3－3）23大和ク

▼準決勝

ジャスコあゆみク16（9－5、7－4）9武蔵野ク

○…立ち上がりからスピード、パスワークに勝るあゆみクラブが6－2とリードしたのに対し、武蔵野クラブは一宮の好パス、好アシストで追い上げを見せ、9－5で折り返す。

後半、疲れの見える武蔵野クラブは足が止まり、ミスの出たところを速攻にいかれ力尽きた。

FCC16（9－4、7－8）12古都ク

○…両チーム共速い走りでパスをつなぎ、スピーディな試合展開となる。古都クラブは、FCCの早いつぶしで得点できず苦しい試合となる。FCCはGKからのパスアウトでボールをつなぎ着々と加点、前半5点のリードで終了。

後半、古都クラブは連続得点で3点差にまでつめ寄り、追いつくかに見えたが、得点をたたれる。その後互角の試合運びでFCCが逃げ切った。

▼決勝

FCC14（8－6、6－5）11ジャスコあゆみク

○…速攻と川波のステップシュートで得点するFCCと遅攻中心の攻撃を見せるあゆみクラブの互角の勝負となった。

前半、FCC2点リードで折り返したが、後半にあゆみクラブが1点を入れ1点差となったまま両者一歩も譲らずという緊迫したゲーム展開が7～8分続いた。FCC・川波のステップシュートが9分に決まって再び2点差となったが、すぐあゆみクラブもペナルティースローで1点差につめ寄った。13分ごろに連続3点をあげてFCCがリードを広げたが、あゆみクラブも2点をあげて再び2点差。その後点の取り合いとなったが、結局FCCが逃げ切った。

〔あゆみ〕	得		〔FCC〕	得
矢部	0	GK	上野	0
渡辺	0	FP	川波	6
辻本	0		松田	1
山下	1		谷口	1
伊勢	5		妹川	4
三木	0		宮島	1
大橋	1		田中	1
宮崎	2		山田	0
今里	0		白木	0
池内	2		横瀬	0
11	(3)	PT	(1)	14

（審・中越、浦前）

第6回全国高専大会

桐蔭学園に栄冠が輝く

第6回全国高専大会は、8月12、13日の2日間、広島県呉市体育館で開催された。

決勝戦は、桐蔭学園（神奈川）と富山との対戦となったが、前半一進一退から桐蔭が一歩リード。しかし、後半は激しく追い上げ同点に追いついたが、ここで桐蔭が再び突き放しに成功、3回目の優勝を飾った。

▼1回戦

明石（兵庫）24〔14—10、10—12〕22 八代（熊本）

呉（広島）23〔14—10、9—11〕21 大阪府立（大阪）

秋田（秋田）24〔10—11、14—12〕23 豊田（愛知）

▼準々決勝

宇部（山口）25〔9—6、16—9〕15 明石

桐蔭学園（神奈川）31〔14—6、17—7〕13 鈴鹿（三重）

呉 26〔14—7、12—13〕20 長岡（新潟）

富山（富山）29〔12—10、17—8〕18 秋田

▼準決勝

桐蔭学園 16〔11—6、5—8〕14 宇部

〇…両チームともダブルポストの攻撃で始まった。桐蔭は佐々木を中心にポストプレーで得点を重ねた。宇部はロングを中心に得点した。10分まで3—3。以後桐蔭のディフェンスが良くなり、宇部は攻めあぐんだ。前半は11—6と桐蔭のリードで終了。

後半、宇部はロング、カットイン、速攻で3得点し11—9、以後も宇部ペースで得点し、10分には13—13の同点になった。ここで桐蔭は宇部の藤井をマンツーでマーク、宇部の展開が悪くなり、攻めが悪くなった。桐蔭が速攻で2得点し逃げ切った。（深見）

得	〔桐蔭〕		〔宇部〕	得
0	佐藤(栄)	GK	蔵藤	0
0	内藤	GK	椋原	0
0	佐藤(一)	FP	平	1
4	三田	FP	佐々木	2
5	佐々木	FP	藤井	5
0	皆川	FP	菊屋	0
3	大塚	FP	木村	0
0	早川	FP	山本	3
0	梶尾	FP	立野	0
4	七原	FP	河村	0
0	野場	FP	河崎	1
0	市川	FP	広瀬	2
16	(1)	PT	(2)	14

（審・中岡・中野）

富山 23〔12—8、11—11〕19 呉

〇…長身・名川を中心とした大型チーム富山とポスト河合を中心とした呉と非常に対象的なチームの対戦となったが、前半の終盤から富山の速攻がたて続けに決まりペースをつかんだ。

後半、富山が単調になった呉の攻撃につけ入り、遅攻と速攻をおりまぜて得点。呉もGKの奮闘で粘ったが、力が一枚上の富山の勝利。（宮川）

得	〔富山〕		〔呉〕	得
0	今泉	GK	大倉	0
		GK	麻田	0
0	橋森	FP	坂本	0
0	丹保	FP	杉原	1
1	田島	FP	寺田	2
2	茂泉	FP	吉岡	1
2	田中	FP	清水	5
5	平田	FP	河合	7
3	喜多	FP	太田	0
5	山本	FP	松原	3
5	花崎	FP	川村	0
0	岡田	FP	中山	0
23	(2)	PT	(3)	19

（審・山高・滝川）

▼決勝

桐蔭学園 17〔10—7、7—9〕16 富山

〇…開始早々、相手のシュートミスからの速攻で富山が先取点。すぐ桐蔭も七原のスカイプレーで得点をあげ、6分ぐらいまではお互いによく動き、3—2と富山がリード。しかし、その後14分まで富山はミスが目立ち、桐蔭が4点を連取、6—3と逆転。結局前半はこの差が縮まらず、10—7と桐蔭リードで終了。

後半、お互いにノーマークシュートをGKがよく守りながらも桐蔭が2点を連取、12—7としたが、富山もよく走り、相手の退場もあってサイド、ロング、とよく決め、20分には同点に追いついた。22分富山はペナルティーをはずし逆転のチャンスを逃がし、逆に桐蔭は生き返ったように、サイド、速攻で2点を連取。富山も残り30秒で1点差としたが及ばなかった。

桐蔭は、富山のエース山本のロングを前によくつめ、攻撃ではスピードのある動き、若さあふれる闘志で、高さを誇る富山を倒したまとまりのある好チームであった。（中岡）

得	〔桐蔭〕		〔富山〕	得
0	佐藤(栄)	GK	今泉	0
0	佐藤(一)	FP	橋森	0
0	三田	FP	丹保	1
1	佐々木	FP	田島	0
0	皆川	FP	茂泉	0
4	大塚	FP	田中	0
0	早川	FP	平田	1
4	梶尾	FP	喜多	6
6	七原	FP	山本	3
1	野場	FP	花崎	5
1	市川	FP		
17	(0)	PT	(1)	16

（審・塩見・村瀬）

特別寄稿

スコダ・ピルゼンを見て／島林護

8年前、東欧圏から初の来日をしたスラビア・プラハを思い出されるスコダ・ピルゼンのチェコスロバキア男子ハンドボールである。

チェコハンドボールは、第2回から第5回世界選手権にいたるまで常にAクラスの戦績を積み重ねながら一九六七年の第6回世界選手権（スウェーデン）でトップの座に踊り出た実力国だが、一九七〇年の第7回フランス大会で、7位のBクラス落ちとなってしまい現在に至っている。その背後は、チェコの名将ベードリッヒ・ケーニッヒによる「ケーニッヒ作戦」と呼ばれるいくつもの新戦法。いわゆる攻守専門のスペシャリスト制に加え、数多くのフォーメーションをあみ出し世界の頂上をきわめたのだが、その後、あらゆる完全な専門化プレーをめざし、その結果、失敗に終わったいきさつがある。

チェコハンドボールの印象。それは、日本ハンドボールと試合の流れがよく似ているように見える。

速攻時の瞬間的なボール運びによる得点、ディフェンスの連繋プレー、二対一を作ろうとする攻撃、スカイプレー、サイドにボールを流しての得点、といったパターンが、いかにも国内試合を見ているような気がする。

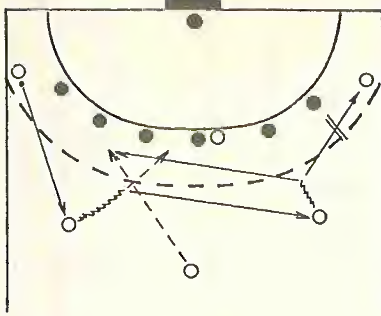
それは、日本ハンドボールがチェコの流れをくんでいると考えてもいいだろう。事実、チェコが世界一になった数年後には、数多くのチェコハンドボールの文献が国内に紹介されている。

一方、ヨーロッパ選手特有の動作に、肩とひじの力だけを使ったパスやシュートがスコダ・ピルゼンの選手に多く見られた。それは安定性に欠けると非常に危険だが高い位置でボールをキープする移動が可能なため、高さに欠ける日本チームには効力を発揮するようである。

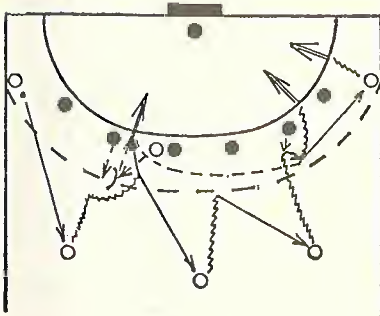
また、ロングヒッターをマークする、0—6ディフェンスから、2—4に切り変える戦法に加え、オフェンスの動きは次のようなものだった。図Aの動作を基本としてB図の立てブロックからのポスト、相手の両45度が浮いた時のサイド流しのライン攻撃を組み立てたものである。（C図）

日本ハンドボールとの一番の違いは、このような、セットフォーメションとも受け取れる広い動きの組立基本動作ではなかろうかと思う。

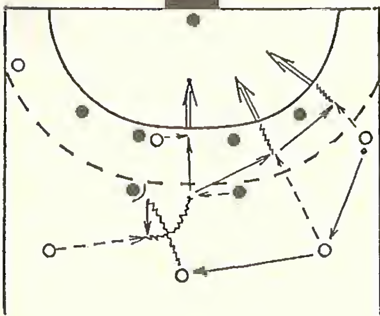
スコダ・ピルゼンチームの出来としては実力の6割ほどであろう。



A 図



B 図



C 図

日本・チェスロバキア男子親善試合結果

▼第1戦（7月29日／大田体育館）
全日本学生 21—20 ピルゼン

▼第2戦（7月30日／筑波大）
筑波大 31—31 ピルゼン

▼第3戦（7月31日／山梨市民体育館）
ピルゼン 32—24 日川クラブ

▼第4戦（8月2日／塩山体育館）
ピルゼン 26—21 日川クラブ

▼最終戦（8月3日／志木市民体育館）
ピルゼン 30—27 全埼玉

※ピルゼンの通算成績は3勝1敗1引き分け

日本・チェコスロバキア女子友好大会結果

▼第1日（8月7日／大崎電気体育館）
東女体大 32—24 ジャスコ
日立栃木 26—24 東京重機
大崎電気 28—24 ゴットワルドフ

▼第2日（8月8日／日立栃木体育館）
ジャスコ 28—24 東京重機
東女体大 34—32 大崎電気
ゴットワルドフ 24—21 日立栃木

▼第3日（8月10日／東京女子体育大体育館）
日立栃木 31—20 ジャスコ
大崎電気 30—24 東京重機
ゴットワルドフ 32—29 東女体大

▼第4日（8月11日／東京重機体育館）
日立栃木 27—24 東女体大
大崎電気 29—25 ジャスコ
ゴットワルドフ 25—17 東京重機

▼最終日（8月12日／志木市民体育館）
東女体大 32—21 東京重機
大崎電気 31—27 日立栃木
ゴットワルドフ 28—21 ジャスコ

〔順位〕①大崎電気（4勝1敗）②ゴットワルドフ（4勝1敗）③東女体大（3勝2敗）④日立栃木（3勝2敗）⑤ジャスコ（1勝4敗）⑥東京重機（5敗）
※1～2位、3～4位は得失点差による。

第29回全日本教職員選手権

栃の葉ク（男子）、愛知教員（女子）がともに二連覇を飾る

第29回全日本教職員選手権大会は、8月9日より14日まで、沖縄県の浦添市、東風平町、具志頭村の各会場を使って開催されました。男子は、栃木県の栃の葉クラブが決勝で大阪イーグルスを後半一気に突き放し、昨年に続いて二連覇を飾った。女子は、愛知と京都の決勝戦となり、愛知が制して二連覇を飾った。

男子

▼1回戦

広島教職員A 26〔10—13 16—5〕18 三重教員

○…両チームとも5分過ぎまで一進一退の攻防をくり返すが、三重教員が速攻、ポストなど川畑を中心によくボールをつなぎ、前半13—10と三重のリードで終了。

後半、広島は立ち上がりから相手のシュートブロック、パスカットなどで速攻を中心によく走り、9分に16—15と逆転。疲れの目立ち始めた三重を尻目に次々と広島は得点を重ね、26—18で逃げ切った。（仲里）

愛知教員A 24〔11—6 13—7〕13 長崎教員

○…両チームともにゾーンディフェンス、ダブルポストと攻守似通ったチーム。前半15分まではスローテンポの展開。長崎は菅のロングシュート、愛知はフォーメーションで4—4の互角の試合であった。15分過ぎから愛知は下山、浅井の速攻により11—6とリードした。

後半、長崎のGK末次がよく守ったが、愛知はよく足を使って確実に得点を重ねた。（宮元）

岩手教員ク 32〔15—6 17—15〕21 若潮ナッツ（千葉）

○…前半、岩手教員がロングシュートと速攻で得点を加えていく。一方若潮ナッツは、岩手のディフェンスを崩すことができず、サイド、ポストシュートが決まらず、前半で15—6と大差がつき勝負が決まる。岩手の速攻ミス、ポストへのパスミスが目立ったが、GK厨川の好プレーが素晴らしかった。（大村）

福岡教員31〔13—8 18—11〕19 静岡教員団

○…両チームよく走り、一進一退の好ゲーム。15分過ぎよりディフェンスの固い福岡が一歩リードし前半を13—8で終わる。後半もゆるむことなく、平野の活躍で福岡が走り勝った。（竹村）

宮城教員団28〔13—7 15—14〕21 宮崎教員

○…前半は両チームとも足を使ったディフェンス、速攻を発揮するが、GKが非常に好守を見せ、一進一退をくり返す。しかし、宮崎の小さなミスを宮城がよくついて少しづつ加点する。

後半は立ち上がり宮崎が宮城のミスをついて攻撃するが、宮城のGKの攻守が、目立ち差がなかなか縮まらない。宮城の高さの攻撃、守備に対して宮崎は速い攻撃で対抗するが及ばず。（井上）

岐阜教員31〔14—4 17—9〕13 STC（滋賀）

○…前半立ち上がり、加藤のロングで先制した岐阜は、その後も相手滋賀のディフェンスの甘さをついて着々と加点し、一方的な試合となった。両チームともにミスの目立つ試合であった。（西澤）

千葉教員26〔10—9 16—11〕20 岡山教員

○…前半はこれといった競い合いもなく、シュートミスの少ない千葉が1点リードして折り返す。後半に入り、岡山が無理なパスをするのを千葉はカットから速攻に出し、差を広げる。岡山も上野を中心につめ寄ろうとするが、取っては取られてで差が縮まらず終了した。（古冨）

福井教員26〔13—5 13—6〕11 宮崎教員オールド

○…立ち上がり両チームとも固さが見られた。6分過ぎから宮崎のパスミス、シュートミスなど凡ミスが目立ち、それに乗じて福井の速攻が決まりだした。

後半に入り、宮崎は3点を連取したが、その後またミスが目立ち福井の速攻にやられる。（上原）

沖縄教員33〔17—5 16—7〕12 雷鳥（岐阜）

○…沖縄は立ち上がりよりサウスポー喜舎場が連続2点をゲット。岐阜も田中がゲットしたが、沖縄はスピードある攻撃で着実に得点を重ね、12点差をつけて折り返す。

後半が始まっても沖縄のペースは変わらず、33—12と大差で岐阜を下した。（福田）

下中オールスターズ（岡山）22〔14—10 8—8〕18 ストーリング静岡

○…動きに勝る下中がよく走り常にリードを保って前半を終了。しかし、後半に入ると下中にミスが目立ち、静岡が老練さを発揮、1点差にまで追い上げたがそこまで。若い下中オールスターが突き放す。（渡辺）

神奈川教員22〔12—6 10—9〕15 白亜教員ク（岩手）

○…白亜がPTで先行したが、神奈川の山田がサイドから回り込んで同点。その後両チームともよく動くが、白亜はシュートミスが多く、反対に神奈川は着実に加点し前半を12—6で終わる。

後半、白亜はシュートミスが少なくなり互角にゲームを進めるが、前半の失点が大きく、神奈川の勝利となる。（菅間）

新潟教員32〔16—11 16—7〕18 広島教職員B

○…広島Bの長谷を中心としたセット攻撃に対し新潟はGK吉川を中心速攻主体のチーム。前半、新潟は俊足の阿部にボールを集め速攻で加点、16—11とリードする。

後半、広島BもGK田中の好守で元気いっぱい走りまくり好ゲームを展開するが、15分過ぎ新潟は若月、大橋へボールをつなぎ着実に得点、勝負を決定づけた。（友寄）

▼2回戦

栃の葉ク（栃木）29〔15—9 14—11〕20 広島教職員A

○…前半、広島は上村のポスト、栃の葉クは滝口のロングシュートの展開となった。両チームやや固

さが見られたが、6分過ぎより栃の葉クは小西、薄井の速攻、ポストにより加点、それに対し広島はサイドと得点し、15—9で前半終了。後半に入っても、栃の葉クは多彩な攻めで着実に加点していった。広島の攻撃は栃の葉クの高いディフェンスに妨げられた。(大城)

大阪ハンターズ 19（8—10 / 11—8）18 熊本教員

○…立ち上がり、大阪が試合巧者ぶりを発揮し、12分まで6—2と差をつけるが、慣れた熊本は徐々にペースをつかみ21分過ぎに逆転、10—8で折り返す。

後半も大阪ペースで展開し、熊本はスピードで対抗するが、16分30秒遂に17—17の同点となる。以後、両チームともGKの好守で得点が伸びなかったが、粘っこく攻めた大阪が、24分15秒にはね返りを上手く決め、辛くも逃げ切った。(古冨)

山口県教員団A 19（9—8 / 10—8）16 愛知教員A

○…両チームともフットワークが良く、ディフェンスに厚味があり、早いつぶしにチャンスを生かすことができず、一進一退のスローペースでゲームが展開される。

後半、山口は角、吉兼の好リードで着実に加点するのに対して、愛知は早川のロングシュートで応戦するが、パスミスから速攻を許し19—16でゲームを終了。(友寄)

わかくさク（奈良）21（8—7 / 9—10 / 1—2 / 3—1）20 岩手教員ク

○…前半、わかくさクの速い攻めと岩手のディフェンスの勝負。しかし、わかくさのパス、キャッチ、ノーマークシュートミスがあまりにも目立った。

後半、動きの鈍ったわかくさに対して岩手のシュートが決まり出し、シーソーゲームとなって遂に延長戦へ。延長に入ってもシーソーゲームは続き、最後岩手のGKミスでわかくさが勝った。(大城)

福岡教員 24（12—15 / 12—7）22 愛媛教員

○…立ち上がり、愛媛は3連続得点と快調な滑り出し、以後もロング、ポストと多彩な攻撃で確実に得点を重ねた。一方福岡は、単発なシュートミスから苦戦し、15—12で前半終了。

後半、ディフェンスを固めた福岡は、GK水上の好守から速攻が出だし、よく走り、22分に同点とし、最後は24—22で福岡が前半のハンディを盛り返した。(森山)

あかぎク（群馬）25（12—5 / 13—8）13 大阪教員

○…前半、大阪、群馬ともによく走り、10分過ぎまで互角の展開。大阪のシュートミスを速攻につなぎ確実に得点した群馬が12—5とリードして前半終了。後半、大阪が反撃に転じ再三シュートを放つが、群馬GK譲原の攻守にあい差を縮めることができず、結局攻守に勝る群馬が25—13でこのゲームを制した。(仲里)

埼玉教員 34（15—8 / 19—6）14 宮城教員

○…両チームとも動きが良く、互角の立ち上がり、5分過ぎより埼玉がよく守り、一歩ずつリードを広げる。前半を15—8と埼玉が主導権を握る。後半も着実に得点を重ね、埼玉が快勝した。(竹村)

京都教員B 31（15—9 / 16—6）15 岐阜教員

○…開始1分、京都・西村のカットインの得点で始まった試合。前半中ごろまで岐阜・加藤の頑張りでリードしたが、サイド、速攻ロングシュートで着々とポイントをあげた京都の一方的リードでゲームは終了した。(松原)

千葉教員 26（14—11 / 12—12）23 滋賀教員

○…前半13分まで両チーム持ち味を生かし一進一退のゲーム。14分過ぎから千葉の速攻が決まり出し、3点差で前半を折り返す。後半、滋賀も17分には追い着いたが千葉松井のロングから点差が開き、3点差で滋賀は涙をのむ。

両チーム、スピードのある試合展開で観衆をわかした。(　)

福井教員 42（22—2 / 20—4）6 和歌山ク

○…福井教員は立ち上がりより相手のパスミス、シュートミス、パスカットなどによる速攻で得点を重ねる。(　)

埼玉教員　不戦勝　青森教員

沖縄教員　不戦勝　香川教員

大分教員 22（9—10 / 13—9）19 下中オールスターズ

○…下中は、立ち上がりからポスト、サイド、ミドルシュートが決まり、大分のシュートミスに助けられ一時は点差が開いたが、大分も15分過ぎから調子を出し、前半1点差で終わる。下中の選手はシュートを決めるたびに喜び、楽しみながら試合をしていた。

後半は力の差として大分が逆転したゲームであったが、学校単一での先生たちが参加し、好ゲームを展開したことは好感が持てた。(島田)

ロイヤルスワロー（兵庫）24（14—7 / 10—10）17 神奈川教員

○…立ち上がり、スワローが速攻などで得点をあげ、10分過ぎには6—1と試合の主導権を握った。

神奈川も池田、小池の活躍で19分には7—9と2点差まで追い上げたが、スワローのGKの好守に阻まれ、残り5分得点することができず、14—7でスワローがリードして前半を終了。

後半に入って、神奈川が2点連取して好スタートしたが、スワロ

ーはGKの攻守から今井、西園を走らせ、10分過ぎには21—10とリードして試合を決めた。（中森）

東京教員21（9—6、12—14）20佐賀教員葉隠

○…立ち上がりより互角の試合展開が10分程続いたが、多少走力が上回る東京が小川の45度からのシュートがよく決まり、3点リードで前半を終了。東京は後半開始佐賀の単発シュートを速攻につなぎ5点差とするが、15分には東京のミスから速攻で連続ゲットした佐賀は同点に追いついた。しかし、東京はよくまとまって全員が走り、佐賀をふり切った。（福田）

大阪イーグルス42（21—6、21—10）16新潟教員ク

○…実力に勝る大阪は、開始直後の3分間程は攻撃がかみ合わずにいたが、新潟のポストへのパスをカットし、速攻が決まってからは一方的な試合展開となる。

新潟はディフェンスの弱い大阪のサイドからの攻撃が時々決まるだけで大阪の実力勝ち。（島田）

▼3回戦

栃の葉ク30（17—7、13—5）12大阪ハンターズ

○…開始早々は両チームともにボールが手につかず凡プレーが続いたが、練習量と力に勝る栃の葉は、ロング、速攻と多彩な攻撃でチャンスを生かし、着々と得点を重ねた。大阪は、栃の葉の長身と堅いディフェンスを攻めあぐみ、ロングにサイドにと谷口一人のプレーが光るが、馬力の勝る栃の葉のワンサイドのゲームとなった。（松原）

山口教員A23（12—10、11—4）14わかくさク

○…山口が角、片山を軸としたコンビネーションプレーや速攻で点を取れば、わかくさは金丸、菅沼の個人技で返すという一進一退の試合運びとなったが、走力に勝る山口が2点をリードして折り返した。後半も同様な展開となったが、動きの良い山口が着々と加点し押し切った。スタミナの差が勝敗を決した感じであった。（西澤）

あかぎク34（18—8、16—10）18福岡教員

○…単発シートの多い福岡に対して確実に守って速攻、そしてセットへと展開するあかぎクは、前半15分で12—3とリードした。後半に入っても、前半と同じようなゲーム展開で、あかぎク・斉藤のゲームづくりの巧さが目立った。（宮元）

京都教員B25（11—10、8—9、2—1、4—1）21埼玉教員ク

○…前半、埼玉クは池田のペナルティ、田仲のポストからの連続シュートで優位に立つかに見えたが、京都も国府を中心にサイド、ポストと激しくゆさぶり、11—10で前半を終了。後半は、両チームともにチャンスを着実に得点に結びつけ、白熱した好ゲームを展開。残り5分、17—17から埼玉・山口、池田のカットインで逃げ切るかに見えたが、京都・西村のステップシュートで同点、延長戦に。

延長では京都が先手を取って逃げ切った。（友寄）

福井教員25（11—10、14—8）18千葉教員

○…立ち上がり千葉のスピードある速攻で一方的なゲーム展開になるかと思われたが、福井も速攻、ミドルシュートなどで対抗、逆に1点リードして前半を終了。後半5分で、福井は千葉ディフェンス棒立ちのところをつき加点、得点差を広げて逃げ切った。（福田）

沖縄教員33（14—11、19—3）14埼玉

○…前半、両チームとも速い動きと多彩な攻撃で、沖縄が3点をリードして折り返す。後半に入って、沖縄の速攻が決まり出し、また、守ってはGK新垣の好守で33—14の大差で試合を決めた。（金城）

ロイヤルスワロー29（17—10、12—10）20大分教員

○…スワローは、西園の速攻、大分は田崎のロングと両チームの特徴ある攻撃でスタートしたが、スワローは大分のシュートをディフェンスのカット、GKの好守で速攻に結びつけ得点を重ねる。セット攻撃でもコンビの合っているスワローは、サイドプレーヤーを上手に使い、大分の長身者からのポストプレーを好守で防ぎ、危なげないスワローの勝利。（島田）

大阪イーグルス26（15—8、11—9）17東京教員

○…立ち上がり、岩尾のシュートで東京にリードを許した大阪だが、5分過ぎより三谷、辻本の速攻で逆転し、その後も着々と得点、15—8で前半を終了。後半に入っても大阪の足は衰えず、ゲームを制した。（屋嘉部）

▼準々決勝

栃の葉ク24（12—7、12—10）17山口教員A

○…前半15分まで一進一退のゲームを展開したが、そこから栃の葉クの速攻が冴え、12—7で前半を折り返す。後半に入っても、栃の葉はサイド、ポストなどで着実に加点、山口も速攻、サイドで対抗するが及ばなかった。（大城）

あかぎク27（9—11、13—11、3—3、2—2、2PTC1）27京都教員B

○…互いにスローペースでゲームは展開されたが、後半に入り一気に京都がリード、勝ったかに見えたが群馬もよく粘り延長戦に。

延長に入っても互いに譲らずPT合戦となった。これも互いに1—1でサドンデスとなり群馬が1

—0で勝ったが、最後まで予断を許さぬ好ゲームであった。（藤本）

沖縄教員30〔13—10／17—6〕16福井教員

○…沖縄は、上原、新垣のファーストブレーク、サイドシュートで前半15分までに12—3とリードした。福井は、シュートミス、ラインクロスが続き調子が出せなかった。後半に入っても、福井は沖縄GK新垣の好守に差を縮めることができなかった。（宮元）

大　阪イーグルス21〔9—8／12—10〕18ロイヤルスワロー

○…両チームともベテランの味を出し一進一退のゲーム展開。前半23分、大阪は辻本のロング、三谷の速攻が出て12—10で前半を終了。後半に入っても一進一退のゲームが続くが、大阪は後半も辻本が頑張り、3点差で逃げ切った。（大城）

▼準決勝

栃の葉ク31〔15—11／16—8〕19あかぎク

○…あかぎクがサイド、速攻で先制。栃の葉クは4分過ぎに追いつき、10分以後は栃の葉ペースで、進行、16—8で前半終了。

後半立ち上がり、栃の葉はあかぎのシュートの甘さを速攻につなぎ連続3得点をあげ引き離す。その後あかぎも栃の葉のミスをついて追い上げるが及ばず。（南）

	〔あかぎ〕	得	〔栃の葉〕	得
GK	譲原	0	岩下	0
GK	野口	0	高橋	0
FP	越石	1	川田	2
FP	斉藤	2	岸	0
FP	今井	3	中山	4
FP	長谷川	0	山本	1
FP	岡田	5	小西	3
FP	栗田	3	滝口	8
FP	寺山	3	武井	6
FP	小金沢	1	名嘉	4
FP	松本	1	薄井	2
FP	上原	0	杉浦	1
PT		(0)		(2)
		19		31

〔審・中村　増田〕

大　阪イーグルス24〔13—9／11—12〕21沖縄教員

○…立ち上がり、沖縄が速攻、ミドルで2点リード。大阪も逆速攻、PTで追い上げるが12—11と沖縄の1点リードで折り返す。後半、大阪は辻本のシュートで同点。その後一進一退が続いたが、残り7分、大阪が速攻で2点リード、そのまま逃げ切る。（大城）

	〔沖縄〕	得	〔大阪〕	得
GK	新垣	0	信貴	0
GK			太田	0
FP	黒島	6	勝本	3
FP	高良	3	源野	2
FP	新垣	2	成願	4
FP	仲本	0	三谷	5
FP	上原	3	厚ヶ瀬	0
FP	新里	0	岩本	0
FP	喜舎場	8	辻本	10
FP	宮城	1		
PT		(1)		(2)
		21		24

〔審・福田　松尾〕

▼3位決定戦

沖縄教員23〔12—11／11—11〕22あかぎク

○…互いにGKの好守でスタートしたゲームは、あかぎクのコンビネーションプレー、沖縄のスピードプレーと両チームの特色のよく出た好ゲームとなり、前半は一進一退で同点で折り返した。

後半に入って、群馬が連続3ゴール引き離すかに見えたが、沖縄もよく粘り20分には逆にリードした。群馬も必死に同点としたが残り20秒、沖縄・黒島のミドルで逃げ切った。（西澤）

	〔あかぎ〕	得	〔沖縄〕	得
GK	譲原	0	新垣	0
GK	野口	0		
FP	越石	1	黒島	7
FP	斉藤	6	高良	0
FP	今井	8	新垣	3
FP	長谷川	1	仲本	0
FP	岡田	3	上原	5
FP	栗田	2	新里	0
FP	寺山	1	喜舎場	5
FP	小金沢	0	宮城	3
FP	松本	0		
FP	上原	0		
PT		(1)		(2)
		22		23

〔審・島田　浜田〕

▼決勝

栃の葉ク26〔14—5／12—10〕15大　阪イーグルス

○…両チームともにスローペースの試合運びで前半を2点差で折り返したが、武井、滝口などアタッカー陣の強い栃の葉クが、後半一気に点差をつけ連覇した。

大阪イーグルスもよく健闘したが、選手層の薄さから力尽きて、優勝戦にしては大差がついてしまった。（藤本）

	〔大阪〕	得	〔栃の葉〕	得
GK	信貴	0	岩下	0
GK	太田	0	高橋	0
FP	勝本	1	川田	2
FP	源野	0	岸	1
FP	成願	3	中山	1
FP	三谷	2	山本	0
FP	厚ヶ瀬	0	小西	1
FP	岩本	0	滝口	9
FP	辻本	9	武井	6
FP			名嘉	2
FP			薄井	4
FP			杉浦	0
PT		(4)		(1)
		15		26

〔審・南　大城〕

〔ベスト7〕

GK　岩下利久（栃の葉ク）

FP　滝口孝之（栃の葉ク）

武井一浩（栃の葉ク）

成瀬正彦（大阪イーグルス）

辻本孝仁（大阪イーグルス）

黒島宣昭（沖縄教員）

岡田　茂（あかぎク）

女子

▼1回戦

群馬教員26〔12—5／14—2〕7滋賀教員

○…試合開始から滋賀の動きが小さく、シュートまでなかなかつながらない状態で、シュートを放っても群馬GK五十嵐の好守に阻まれ、逆速攻にあい得点を許す。前半で14—2と大差がついて勝敗は決した。（税所）

レキオ・ク（沖縄）21〔10—7／11—8〕15山　口女子教員ク

○…前半、沖縄はサイド、カットインを主とした攻撃で、山口は速攻、ポストなどで得点したが、

僅かにディフェンスの悪い山口が沖縄に3点リードされた。後半も両チームともミスが多く、それをチャンスに結びつけた沖縄が点差を広げた。（増田）

兵庫教員風見鶏ク 27（11—9, 16—8）17 栃の葉女子教員

○…前半、両チームとも激しい攻防で好ゲームを展開。栃木は宇賀神のカットインシュート、安藤のサイドシュートで得点するが、ミスも目立つ。兵庫は相手ミスをつき速攻から着々得点を加え、前半を11—9で終了。後半も兵庫は全員がよく走り得点する。全員がよく走った兵庫が、後半大差をつけて勝った。（中村）（栃木）

埼玉白小鳩教員 20（13—4, 7—6）10 宮崎教員

○…埼玉白小鳩は、立ち上がりから喜田のロング、市川の5連続得点、また攻撃的ディフェンスで攻守にわたり宮崎を圧倒、13—4で前半を終了。後半に入り、ディフェンスを固めた宮崎は速攻で再三のチャンスをつかんだが、埼玉GKの好守にあい得点チャンスを逃がし、20—10で埼玉が勝った。（森山）

京都教員 28（16—5, 12—12）17 長崎教員

○…16分まで4—4の同点。その後京都がパスカットからの速攻、サイドからのカットインなどで得点を重ね16—5と大差で前半を終了。長崎も奮起して互角の展開を見せたが、前半の点差が大きすぎた。（大城）

▼2回戦

愛知教員女子 23（11—12, 12—8）20 群馬教員

○…ゲームは群馬ペースで展開され、前半12—11と1点をリードして終了。しかし、後半5分過ぎより愛知の速攻が決まり始め、一気に逆転。群馬も最後まで粘りを見せたが、総合力において愛知が上回った。（藤本）

レキオクラブ 21（11—8, 10—11）19 兵庫教員風見鶏ク

○…立ち上がりレキオがサイド、ポストで先取点。兵庫も速攻、サイドを追いつき一進一退の攻防。17分過ぎレキオはPT、カットイン、速攻で加点し、11—8で前半を終了。後半立ち上がり、兵庫は李のミドル、PTで追い上げ調子に乗るかに見えたが、レキオも多彩な攻撃を見せて前半のリードを保って逃げ切った。（南）

神奈川教員女子 19（10—5, 9—7）12 埼玉白小鳩教員

○…埼玉・青柳のロングシュートで先取したものの、ディフェンスの甘さをつかれて神奈川に連続得点を許し、以後も神奈川が着実に加点して逃げ切った。（中村）

京都教員 23（12—8, 11—5）13 千葉クラブ

○…両チームともスピードのある攻撃で互角の展開。しかし、ディフェンス、攻撃ともバランスのとれた京都がリードして前半終了。後半になって千葉もいい反撃を見せて迫るが、ディフェンス力が上の京都に対して点差が縮まらず、逆に開いて終了。（井上）

▼準決勝

愛知教員女子 21（13—7, 8—8）15 レキオクラブ

○…愛知がサイド、ペナルティー、ミドルで先取、レキオもミドル、速攻で追いついたが、愛知はレキオのシュートの甘さ、パスミスを着実に速攻に結びつけ点差を広げた。20分過ぎ、レキオも愛知のミスを速攻につなぎ3連続得点するが、13—7で前半を終了。後半立ち上がり、レキオが速攻で先取、調子を上げ一進一退の好ゲームが展開されたが、前半の点差で愛知の勝利に終わる。（南）

得	〔愛知〕		〔レキオ〕	得
0	松下	GK	砂辺	0
0	三宅	GK	伊是名	0
1	稲垣	FP	真栄城	3
8	天野	FP	山城	0
0	鈴木	FP	嵩原	4
3	武田	FP	具志堅	2
0	山田	FP	島袋	2
4	富田	FP	下里	2
5	大久保	FP	石川	0
0	関	FP	金城	0
0	鏡	FP	許田	2
0	杉浦	FP		
21	(1)	PT	(2)	15

（審・中村、増田）

京都教員 21（9—4, 12—8）12 神奈川教員

○…前半、両チームとも同じようなペースで展開し、特に両GKの活躍で堅いゲームとなった。20分4—3で神奈川リードであったが、その後PTで同点にし、京都の動きが鋭くなり、ロング、ポスト、速攻などで5点差をつけた。後半も京都のペースで展開され点差を広げた。（増田）

得	〔京都〕		〔神奈川〕	得
0	森	GK	山中	0
		GK	広瀬	0
3	秋田	FP	貝塚	0
7	渡辺衆	FP	清田	1
3	藤田	FP	土屋	3
3	矢野	FP	山口	2
1	谷坂	FP	加藤	2
4	多田	FP	野見山	0
0	渡辺秀	FP	山岸	0
0	花田	FP	野島	1
0	吉川	FP	稲田	3
0	坂本	FP		
21	(1)	PT	(1)	12

（審・南、大城）

▼3位決定戦

レキオクラブ 24（11—7, 13—9）16 神奈川教員女子

○…前半、レキオが具志堅の連続速攻でリードし、その後速攻、ポストシュートと着々と加点。一方、神奈川は、土屋、山口のシュートで追いすがり、11—7で前半を終了。後半になってもレキオの速攻が決まり、追いすがる神奈川をふり切った。（屋嘉部）

得	〔レキオ〕		〔神奈川〕	得
0	砂辺	GK	山中	0
0	伊是名	GK	広瀬	0
6	真栄城	FP	貝塚	2
0	山城	FP	清田	1
3	嵩原	FP	土屋	5
4	具志堅	FP	山口	6
5	島袋	FP	加藤	1
1	下里	FP	野見山	0
2	石川	FP	山岸	1
0	金城	FP	野島	0
3	許田	FP	稲田	0
24	(1)	PT	(4)	16

（審・藤本、西澤）

▼決勝

愛知教員女子 29（15—11, 14—10）21 京都教員

○…高さの愛知か、走りの京都かという戦前の予想でチームは開始。両チームともに立ち上がりからスピーディな展開で、15分過ぎまでは一進一退の攻防をくり返すが、愛知がロング、ミドルでリード、前半を15—11で終了。

後半に入って、京都も速攻を中心に反撃するが、愛知の高いディフェンスを攻めあぐみ、逆にシュートブロックからの速攻で点差を縮めることができず、愛知が大会二連覇を飾った。（仲里）

得	〔愛知〕		〔京都〕	得
0	松下	GK	森	0
0	三宅	GK		
1	稲垣	FP	秋田	2
7	天野	FP	渡辺衆	3
4	鈴木	FP	藤田	5
2	武田	FP	矢野	2
0	山田	FP	谷坂	3
10	富田	FP	多田	5
5	大久保	FP	渡辺秀	0
0	関	FP	花田	1
0	鏡	FP	山崎	0
0	杉浦	FP	坂本	0
29	(1)	PT	(4)	21

（審・島田、浜田）

〔ベスト7〕

GK 三宅由子（愛知教員）

FP 天野優子（愛知教員）

富田幸代（愛知教員）

藤田みゆき（京都教員）

天野弥生（京都教員）

真栄城功子（レキオクラブ）

山口順子（神奈川教員）

Mizuno
THE WORLD OF SPORTS

SINCE 1906
ボクら、万有引力とたわむれる

コンケーブ意匠
ヘリボーン意匠
サイドモーションサポートリブ
ピボットリング
フレキシブルゾーン

パワー効率重視。コートのマシン〈ランバード〉

室内コート専用のマルチファンクション ソール。

前後左右、あらゆる方向へのトラクション性にすぐれたヘリンボーン意匠をベースに、かかとには着地時の衝撃を吸収、分散するコンケーブ意匠を配置。また、ソール前半にはパワーロスを防ぐサイドモーション サポートリブ、回転運動の軸となるピボットリングをはじめ、屈曲性を高めるフレキシブルゾーンなどをレイアウト。多様なプレーに対応するソールパターンが生まれました。

〈ランバード〉ハンドボール シューズ
《ウイング ショット》¥12,000

- 甲/牛革 ●補強材/人工皮革 ●底/ラバー ハーフ シェル ソール
- カラー/16KH-1527 ホワイト・レッドにメタリックネイビー ライン
  /16KH-1562 ホワイトにレッド ライン





将来教員を目ざす大学生を対象として毎年開催されているこの研修会も、今年で13回目に至っている。本年も、7月22～7月26日まで筑波大学で開催された。

本年は、学業の都合で参加を止りやめた大学があったことが残念であった。来年度以降の日程の組み方に一考を要すると思われる。

1、役員、講師、補助員

大西武三、本田娟一、村松誠、山崎武、高松薫、小山哲央、水上一、岡本研二、河村英明、河村レイ子、笹倉清則、清水宣雄、宮元章次、東根明人、酒井俊郎、中島昭博、岡部大、杉森弘幸、筑波大学男女ハンドボール部。

2、参加チーム

〈男子〉 金沢大学3名、福島大学8名、創価大学8名、横浜市立大学4名、国際武道大学14名、琉球大学7名、信州大学7名、北海道教育大学函館分校7名、都留文科大学8名、筑波大学5名、計76名。

〈女子〉 福島大学6名、岩手大学2名、宮城教育大学9名、茨城大学9名、滋賀大学10名、創価大学7名、金沢大学5名、文教大学8名、信州大学7名、奈良女子大学9名、千葉大学7名、富山大学4名、都留文科大学5名、京都女子大学12名、琉球大学6名、国際武道大学1名、筑波大学3名、横浜国立大学1名、生活学園短期大学2名、計113名、男女合計189名。

3、研修会賞

午前、午後の練習の技術、戦術のまとめとしてミニゲームが行なわれるが、ミニゲームの成績の良いチームに研修会賞としてトロフィーが贈られている。本年度は、男子福島大学、女子文教大学であった。

4、講修内容

本年度は、午前の経験別基礎技術講習をフローター、ポスト、サイドのポジション別に行なって、より実状に合せた練習ができるようになっている。午後は、主にチームプレーを主体とした講習が行なわれた。同一大学でチームを組むが、人数の少ないチームや多いチームよりの人数で、混成チームを作って練習を行なった。25日午前は、講師全員による講義、また、午後には、大崎電気の岡部選手によるGKの実技講習が行なわれた。

夜は、1日目はオリエンテーション、2日目は、①トレーニング、②ルールと審判、③初歩的段階についての全般的質問、④中級的段階についての質問、⑤VTRの中から希望グループに分けて講習を行なった。3日目はチームの独自性にまかせて、チームミーティングとした。また、4日目は、①ルールについて、②レフェリングについて、③上手になるための秘けつ、④効果的な練習法、⑤SHOOTINGについて、⑥戦術について、⑦防御について、⑧VTRの中から希望グループに分けて講習を行なった。

▼研修日誌より

◇7月23日 〈午前〉天候・晴れ、場所・多目的グラウンド、チーム名・富山大学、講師名、B―F・中島、AIS・GK・笹倉、清水、記入者・井出、川渕。

〈教育内容〉 B―Fチーム、準備運動、パス…肩をひき、肘をさげないで腰をひねりながら。キャッチ…手を前にのばし、ひきながらボールのいきおいをころしてキャッチする（片手キャッチの要領で）　シュート…はやく走り込んでワンステップでうてるようにする。

〈その他〉 いつもゴールをみて、相手にプレッシャーをあたえる。常にフェイント（目でのフェイント）。サイドからボールをもらったときの動き・ディフェンスに平行に走らずまるく走る。。ジャンプフェイント・ディフェンスの左でジャンプしドリブルをいれ右からシュートをする。A―S、GKチーム。準備体操を含んだパス（また下から…など）。パス…腕が最短距離を通ること、ボールは頭に隠れるはず。ランパス…ボールを投げる時は相手をあまり見ない。見ても一瞬だけ。キャッチの後ゴールを見る。サイドの走りとキーパーの球出し、サイドラインに添って走ること！。ポストシュートの練習・体重移動を必要して、・キーパーを動かしてから、・左足のステップを工夫してディフェンスをかわす。。ポストの動き・ディフェンスを1人おき上のフェイントと逆に移動してからシュート。⇩キーパーに同時に動かれてしまうので。すぐに動かず、パスにとびついてキャッチしてシュート。ポストからサイドへパスをまわしてからのシュート…ポストはディフェンスをひきつけサイドはパスに合わせてまわり込む。

〈感想〉 今日はこの研修会の初日ということで、いったい何が行なわれるのかと胸ときめかせてグランドへと急いだ。基礎技術は、技術別にチーム分けされて行なわれたが、自分たちがふだん何とも思わずシュートし、パスletcということに気がついた。今、ここで何かに気がついたからよかったもののこの研修に来ないで今までどおりの練習をしていたら、きっと〝ハンドボール〟というものを全然わからなかったと思う。今日一日でさえ、これだけ得ることができたのだから、後日にはもっと得られるように今日はこれで眠りにつくことにしよう！

◇7月23日 〈午後〉天候・晴れ、

場所・グランド、チーム名・琉球大学、講師名・山崎武、記入者・赤木章二。

〈**教育内容**〉チームプレイ＋ミニゲーム、6対6の攻防（チームのきめ事）・ポストは前後どちらに動くか・ポストの守り方、チェンジするのかしないのか・サイドはINに抜かすのか、OUTで勝負させるのか。（注意）・サイドの速攻のとび出し方、今まではシュート態勢に入ったらとび出していたが、やはりシュートしたボールの進行を見てからすばやくダッシュする方がよい。（ミニゲーム）チーム目標。ディフェンスのもどりを早くする。声でプレイ、ディフェンスをつなぐ。楽しくプレーする〈**結果**〉琉大5―8都留文大、琉大11―5国武大A。

〈**感想**〉今日の4チームの中では一番元気よくできたのではないだろうか。かんたんなミスが多かったことは、今後の反省点であるがこれからは少なくなるだろう、ボールをしっかりと見ていこう。先生方の一言一言が勉強になるので明日もハリキッてやろう。

◇**7月24日**〈午前〉天候・晴、場所・多目的グランド、チーム名・福島大学、講師名・山崎武、記入者・森徹雄。

〈**教育内容**〉今日の練習は昨日の練習を復習して、新たに3つの攻撃パターンをくわえたものであった。サイドプレーヤーは行動範囲がセンターまで約半円を自由に動き、少なくとも得点源になる動きがその間に4つ以上含まれてなくてはならない。1回1回の正確なフェイントで相手をくずしていくのは基礎でありながら、実践の場ではあせってうまく動く事ができない。正確性と予測性をもって積極的に自分たちのチームカラーにそったプレーを目ざすべきで、前提には今回教わったサイドプレーヤーの柔軟な動きが心要であろう。

〈**感想**〉まず第一に講師の指導力のずばぬけてすぐれている事をあげなければならない。実践での場を想定したサイドプレーヤーの動きは少なくとも1つ以上の攻め方＝シュートにつながるものがあり、自分たちでどのような攻撃パターンを作るのか、今回の練習からヒントを得れたと思う。またハンドは、正確性が本当に要求されるもので一つ一つの行動にあわせた正解なプレーが勝利へつながるとつくづく思った。

◇**7月24日**〈午後〉天候・晴れ、場所・筑波グランド、チーム名・滋賀大、講師名・酒井先生、記入者・三原淳子。

〈**教育内容**〉今日の試合…文教大―滋賀大、AND　いばらぎ―しが、初歩的なミスから（パスミスなど）相手に速攻を走られるケースが多かった。DFのもどりも遅い。滋賀大はその場の状況に応じて自由に動いてチャンスがあればねらうというやり方だけど、いばらぎなどのように、攻撃のパターンを作って攻めていく必要がある。また、相手のDFのもどりがはやいので、そういう場合には長いパスを出さずに、短いパスでつないでいって、自分たちのペースをつかんで攻撃する。つなぎが悪いので2本目の人が走ってやらなければいけない。あと、みんなINへINへときっていって、中の方に寄ってしまうので、もっと広くコートをつかって、アウトにきるとかして、幅を広げてプレイするようにする。

〈**感想**〉こういうふうな負け試合になると、みんなあせったりえらくなってきて、プレーじたいでもたとえばカットして速攻などに出る場合でも、はやく1点とりたいとおもうせいかDFが近くにいるのにパスしてしまうとか、あと、無理なシュートを打ってしまうとかなってくるので、1本おちついて態勢をたてなおして攻めていくべきだと思った。あとは、もっとボールを持っていない人が動いてチャンスを作らなければいけないと思った。

◇**7月25日**〈午前〉天候・くもり、場所・52B15教室、チーム名・千葉大学、講師名・全講師、記入者・竹内淳子。

〈**教育内容**〉（講義）大西先生：1、いろいろなものに挑戦し、フレームの大きな人になろう。2、主体的に取り組もう。山崎先生：1、一流になるには一〇〇〇〇時間（一日5時間なら5年）の練習が必要。3、挑戦するときには、いい友人と仲間をつくってがんばろう。水上先生：世界の女子の話身長が高い、ゲーム展開がはやい。岡本先生：1、ソ連は高い文化をもっている（ex サーカス、バレエ）それでハンドをやっているから日本は勝てない。2、いい選手は頭でパスし、世界的レフェリーは心で笛を吹いている。清水先生：1、プレーヤー、レフェリー、観衆の関係、2、レフェリーに必要なもの、①高いパーソナリティー②技術（位置・目）、③判断力（勇気）、④表現力、岡部選手：1、ゴールキーパーの良し悪しがゲームを左右する。2、キーパーには技術と勇気、ボールに対して素直に向かっていくことが心要。笹倉先生：スコアブックのつけ方、スコアブックをおおいに利用してほしい。河村先生：1、大会は裏方ががんばっているからできる。2、チームづくり、手伝いができるチーム、個人の性格、宮元先生：沖縄にはすばらしい環境の施設があるので是非きてほしい。東根先生：教員養成系の人へ⇩今はおおいに管理されなさい、あいさつのできる子どもを育ててほしい、リーダーシップの行動（集団維持、目標達成）酒井先生：教えることのむずかしさ「何がわからないのか」を理解する。個人の評価ができる力をやしなう。中島先生：1、ハンドボールをやった経験をいかしてほしい。2、子どもたちのレベルに下がって、その人が何を感じているのかを感じる。3、自分のもっている熱いもののまわりにいろいろなものをつけて大きくなっていく。杉森さん：指導者には情熱・愛情が必要なのだ。

〈**感想**〉最後に院生の杉森さんがおっしゃったように、先生方のハンドボールに対する情熱や、生徒に対する愛情を強く感じました。短い間でしたが、先生方の一言一言が心にしみる味わい深い講義でした。この研修会に参加するのは3度めですが、毎年豊かな経験を積まれた一流の先生方に指導していただけるのでとても勉強になります。

◇**7月25日**〈午後〉天候・曇り、場所・多目的G、チーム名・創価大学、講師名・東根先生、記入者・石戸英司。

〈**教育内容**〉GK、岡部選手による練習、足の使い方、ボールの取り方、ため、ポジション。練習試合、対琉球、対国武A、対筑波A、

〈**感想**〉キーパーの練習は、全て得るものがあった。特に足の使い方に関しては、非常に関心を持った。練習試合では、対筑波戦が今までになく熱がはいり、かつ楽しくできた。また。それによって脚力、筋力の違いを非常に感じた。

男子ナショナル ユーゴスラビア遠征結果

男子ナショナルチームは、7月13日から約1ヵ月にわたってユーゴスラビアに遠征、強化合宿、親善試合を行なってきた。

日本ハンドボール界にとって、ユーゴスラビアは古くからの親しい〝先生〟であり、アジア大会、そしてソウル・オリンピックでの活躍を目ざす男子ナショナルチームにとっては、貴重な勉強のための遠征となった。

現地での各クラブチームとの親善試合は、7戦行なって5勝2敗という結果であった。

野田監督以下選手諸君からは、この遠征で学んだ詳細な技術レポートが寄せられており、次号から連載でみなさんにご紹介しようと思っている。

◎親善試合結果

▼第1戦（7月30日）
日本 27（12－10, 15－9）19 パルチザンドビツ

▼第2戦（7月31日）
日本 32（18－7, 14－4）11 イナシサク

▼第3戦（8月2日）
日本 30（17－14, 13－8）22 グラツァニツァ

▼第4戦（8月3日）
日本 27（15－7, 12－6）13 バノビッチ

▼第5戦（8月6日）
日本 24（12－12, 12－10）22 アラニック

▼第6戦（8月8日）
イスクラ 22（9－9, 13－12）21 日本

▼第7戦
ボスナモンタージャ 24（13－9, 11－14）23 日本

※通算成績は、5勝2敗。

日本・オーストリア（ヒポ銀行）親善試合結果

▼第1戦（8月20日／岩井市総合体育館）
ヒポ銀行 28（13－14, 15－10）24 日本ビクター

▼第2戦（8月21日／日立栃木体育館）
ヒポ銀行 19（9－8, 10－7）15 日立栃木

▼第3戦（8月23日／日立栃木体育館）
ヒポ銀行 35（14－11, 21－10）21 日立栃木

▼第4戦（8月25日／大崎電気体育館）
ヒポ銀行 31（17－14, 14－9）23 大崎電気

▼第5戦（8月26日／東京重機体育館）
ヒポ銀行 16（8－10, 8－5）15 東京重機

※オーストリア・ヒポ銀行は5戦全勝

ユーゴ・ボスナモンタージャ来日親善試合

ユーゴスラビアのクラブチーム・ボスナモンタージャの男子が来日、8月28日から9月7日までの11日間日本に滞在、各地で6試合の親善試合をな行った。

ボスナモンタージャは、ミュンヘン・オリンピックの金メダリスト、名GKアルスラナジッチ氏が監督をつとめる、ユーゴの中堅クラブチームで、日本のナショナルチームが過日ユーゴに遠征した際には1点差で敗れている。

しかし、遠征疲れもあったのか、また日本の各チームもよく健闘をみせ、ボスナモンタージャは6戦して3勝3敗の成績で帰国した。

▼第1戦（8月29日／広島県立体育館）
湧永製薬 32（18－15, 14－12）27 ボスナモンタージャ

▼第2戦（8月30日／日新製鋼体育館）
ボスナモンタージャ 30（15－16, 15－13）29 日新製鋼

▼第3戦（9月1日／名古屋市体育館）
大同特殊鋼 26（11－11, 15－11）22 ボスナモンタージャ

▼第4戦（9月3日／本田技研鈴鹿体育館）
ボスナモンタージャ 23（12－9, 11－9）18 本田技研鈴鹿

▼第5戦（9月4日／市川市民体育館）
全日本 25（13－12, 12－7）19 ボスナモンタージャ

▼第6戦（9月6日／青山学院記念講堂）
ボスナモンタージャ 26（14－11, 12－10）21 三陽商会

訂正とお詫び

前号のアジア大会代表選手紹介で藤井泉選手の所属を本田技研鈴鹿としましたが、日新製鋼呉ですので、訂正させていただきますとともに、深くお詫びいたします。



高度なスカイプレーが変幻自在。

スカイハンド®スペシャル (THH705)

- カラー　ホワイト×レッド・レッド×ホワイト・ロイヤルブルー×ホワイト
- サイズ　22.5～28.0cm
- アッパー　ステア表革(ホワイト×レッド)
  牛革ベロア(レッド×ホワイト、ロイヤルブルー×ホワイト)

標準小売価格 ¥13,000

asics TIGER

襲う。

ストップ&ジャンプ性能を徹底追求したシューズ、〈スカイハンド®スペシャル〉。つま先からかかとまで衝撃吸収性に富む超軽量スポンジE・V・A・を内蔵したカップソールが、素晴しい軽さ、ソフトな着地感、ストップ性を獲得しました。アクロバチックなスカイプレイを繰り広げながら、ヒッチコックの「鳥」のような圧倒的迫力でゴールを襲うハンドボーラーに捧げます。

株式会社アシックス

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』 第二五五号
昭和四十年六月[illegible] 第三種郵便物認[illegible]
昭和六十一年八月二十五日印刷
昭和六十一年九月一日発行
東京都渋谷[illegible]一一一一
電話 代表[illegible]三六一
振替 東京 六一五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五十円
（年間購読料三千三百円）

